

防府市社会教育委員の会議報告書

(研究期間 令和5年11月～令和7年10月)

研究協議テーマ

「ひとりひとりがきらめく人づくりの具体的な方策について」



写真：「ほうふみらい塾 令和6年度第6回講座の様子」
(於：三田尻塩田記念産業公園)

令和7年10月21日

目次

I	はじめに	2
II	防府市社会教育委員の会議 研究の経緯	3
III	各部会からの研究報告	
1	大人の人材育成と活用部会	5
(1)	部会のテーマ	5
(2)	調査の概要	5
(3)	調査結果（第一段階）	6
(4)	調査方法の見直し（第二段階）	8
(5)	調査結果（第二段階）	9
(6)	調査方法の見直し（第三段階）	11
(7)	調査結果（第三段階）	12
(8)	課題と今後について	14
(9)	まとめ	15
2	子どもの人材育成部会	17
(1)	部会のテーマ	17
(2)	調査の概要	17
(3)	調査結果と考察	18
(4)	課題と今後について	26
(5)	まとめ	27
IV	おわりに	30
V	資料	
(1)	資料1-1 第一回アンケート集計	
(2)	資料1-2 防府市生涯学習推進に係る実態調査：アンケート項目	
(3)	資料1-3 第二回アンケート集計と分析	
(4)	資料1-4 生涯学習団体（補助金団体）	
(5)	資料1-5 生涯学習団体（福祉関係）	
(6)	資料2-1 第6回調査開講式江山稔教育長挨拶・卒業生挨拶	
(7)	資料2-2 第7・8回調査聞き取り調査	
(8)	資料2-3 第9回調査国衙寺子屋「子ども自治会長選挙」	
(9)	資料2-4 神田橋芳幸氏アンケート	
(10)	資料3 社会教育委員名簿	

I はじめに

現代社会は技術革新の急激な進展、急速に進む少子高齢化、多発する自然災害、グローバル化による価値観の多様化などにより、極めて複雑で予測不可能な状況に直面している。

こうした中、持続可能な地域コミュニティの形成に向けた社会教育による、より効果的な人づくり、つながりづくりを進めていくことが重要な課題となっている。

本市では、平成12年（2000年）3月に「防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン）」が策定され、防府らしい「いつでも、どこでも、誰でも学びたいことが学べ、いきいきと活躍できる生涯学習社会」の実現を図る取組が進められてきた。令和4年（2022年）3月には「第3次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン3）」が策定され、その基本理念として「豊かな学びで人がつながり地域がつながる きらめくまち防府」を掲げられ、次の3つの基本目標が設定された。

基本目標1	いつでもどこでも学べる環境づくり
基本目標2	ひとりひとりがきらめく人づくり
基本目標3	学びを通じてつながる地域づくり

さて、社会教育法17条には社会教育委員の職務について、「社会教育に関し教育委員会に助言すること。」「定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。」「職務を行うために必要な調査研究を行うこと。」と定められている。

防府市社会教育委員の会議では、「第2次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン2）」（平成24年度～令和3年度）から引き続き掲げている基本目標1と基本目標3においては、一つ前の任期（令和3年11月～令和5年10月）に調査研究を行った。

今期（令和5年11月～令和7年10月）は、基本目標2「ひとりひとりがきらめく人づくりの具体的な方策について」を研究テーマとして17名の社会教育委員が、「大人の人材育成と活用部会～防府市における生涯学習の現状から～」と「子どもの人材育成部会～ほうふみらい塾の活動を通して～」の2部会を構成し調査研究を行った。

人生100年時代を迎え、誰もが生涯にわたって必要な学習を行い、その成果を個人の生活や地域での活動に生かすことができる生涯学習社会の実現のために、人材育成の視点から「大人の学び」「子どもの学び」について研究を進めた。

生涯学習関連団体やボランティア実践団体へのアンケート調査の分析、立ち上げから11年目に入った「ほうふみらい塾」の現地視察、聞き取り調査等を実施することにより、今後の方向性について報告書にまとめた。

Ⅱ 防府市社会教育委員の会議 研究の経緯

年月日	内容	
令和5年度		
11月 1日	●防府市社会教育委員の委嘱 17名（任期 R5.11.1～R7.10.31）	
2月16日	●第1回防府市社会教育委員の会議 ・研究テーマ「ひとりひとりがきらめく人づくりの具体的な方策について」を提案し、「大人の人材育成と活用部会」と「子どもの人材育成部会」に分かれて、課題解決に向け、研究の進め方や内容について協議した。	
令和6年度		
5月16日	●第2回防府市社会教育委員の会議 ・令和6年度教育施策、当初予算、社会教育関係団体補助金について協議した。 ・研究テーマを「ひとりひとりがきらめく人づくりの具体的な方策について」とし、2つの部会「大人の人材育成と活用部会」と「子どもの人材育成部会」に分かれて、それぞれの視点から協議を始める。	
5月17日	●山口県社会教育連絡協議会幹事会	
7月12日	●山口県社会教育委員連絡協議会総会及び研修会	
7月17日	【大人の人材育成と活用部会】 ・防府市のボランティア人材に関わる協議を行う。アンケート調査をすることに決定した。	
10月 6日		【子どもの人材育成部会】 ・子ども文化祭でのほうふみらい塾の児童生徒の活動の様子を視察。
10月30日	●第3回防府市社会教育委員の会議 【大人の人材育成と活用部会】 ・アンケート結果を受けての協議、今後の研究方針の確認を行う。	【子どもの人材育成部会】 ・視察の様子を情報共有し、活動のもつ価値について協議した。
12月 6日		【子どもの人材育成部会】 ・防府市子ども会育成連絡協議会の凧揚げ大会の様子を視察。
12月14日		【子どもの人材育成部会】 ・ほうふみらい塾の講座を視察。
2月 1日		【子どもの人材育成部会】 ・ほうふみらい塾の閉講式を視察。
2月19日	●第4回防府市社会教育委員の会議 【大人の人材育成と活用部会】 ・ここまでの調査研究を振り返り、今後の部会の進め方について協議した。	【子どもの人材育成部会】 ・ここまでの視察について内容等を情報共有した。

令和7年度		
5月12日	●第5回防府市社会教育委員の会議 ・令和7年度教育施策、当初予算、社会教育関係団体補助金について協議。 ・各部会で、報告書の作成に向けて協議した。 ・大人の人材育成と活用部会では、講座企画者に対してアンケート調査をすることに決定した。	
5月16日	●山口県社会教育委員連絡協議会幹事会	
5月～6月	【大人の人材育成と活用部会】 ・講座企画者に対して、実施して良かったと感じた講座、講師とその理由についてアンケートを実施した。	
7月18日	●山口県社会教育委員連絡協議会総会及び研修会	
7月29日	【大人の人材育成と活用部会】 ・アンケート結果の分析と報告書の方 向性について協議した。	
8月20日	●第6回防府市社会教育委員の会議	
	【大人の人材育成と活用部会】 ・報告書素案について検討した。	【子どもの人材育成部会】 ・報告書素案について検討した。
10月21日	●第7回防府市社会教育委員の会議	
	・教育委員会へ報告書を提出。	

Ⅲ 各部会からの研究報告

1 大人の人材育成と活用部会

(1) 部会のテーマ

◎「大人の人材育成と活用について」

～防府市における生涯学習団体の現状からみる～

○テーマ設定の理由

防府市では、生涯学習を推進するために、防府市生涯学習推進計画（現在は第3次の計画であり、令和4年度～令和7年度の計画となっている。以下、学ぼうやプラン3と記述）を策定している。これらの施策は、常にその実施状況を点検・検証して課題を抽出し、次の推進計画に反映させることが求められることから、社会教育委員の会議は、3つの基本目標について実施状況の点検・検証、そして課題の洗い出しの調査研究を依頼された。基本目標の1と3については、既に前回の社会教育委員の会議の調査研究として、提案がまとめられているので、今期は、基本目標2「ひとりひとりがきらめく人づくり」についての調査研究を依頼したいという申し出があった。

そこで、社会教育委員の会議では、二つの部会に分けて、学ぼうやプラン3の実施状況を点検・検証して課題等を抽出し、次期の推進計画に反映できるよう方策を検討することとした。本部会は、今後の調査方針を、防府市の「人材育成や活用に関する実態を把握すること【学ぼうやプラン3が取り組もうとしている3つの施策（①生涯学習を支える人材の育成、②学習成果を生かす機会の充実、③主体的な市民活動への支援）についての各種データを収集して考察する】」とし、テーマを「大人の人材育成と活用について～養成講座修了者やボランティア人材を通して～（調査研究当初のサブテーマ）」とした。（このサブテーマは、その後変更された。）

(2) 調査の概要

◎ 防府市教育委員会から依頼された調査研究は、令和6年2月～令和7年8月まで行ってきたが、この間、以下に記述するように調査方法とその成果を検証する際に、データ不足であったり、調査方法に課題があったりで、なかなか「人材育成や活用に関する実態を把握すること」が難しく、3段階にわたり、紆余曲折しながら、現在できる範囲での調査研究の成果をまとめとした。

ア 調査目的

学ぼうやプラン3が取り組もうとしている3つの施策（①生涯学習を支える人材の育成、②学習成果を生かす機会の充実、③主体的な市民活動への支援について）の各種データを可能な限り、収集して考察することにより、防府市の「人材育成や活用に関する実態」を把握し、実施状況を点検・検証して、課題等を抽出し、次期の推進計画に反映できるよう方策を検討することを目的とする。

イ 調査方法（第一段階）

学ぼうやプラン3に基づき、防府市が既に実施している施策に関するデータ（以下に提示）を「人材育成や活用に関する実態」として把握し、点検・分析、課題を抽出する。

集めるデータは、防府市教育委員会生涯学習課が所管するものを中心として、学ぼうやプラン3の3つの施策のうち（①生涯学習を支える人材の育成、②学習成果を生かす機会の充実）から、以下のi～iiとした。

- i 各種養成講座修了者の資料（各種養成講座出身者の活用状況について）
- ii 防府市が所管している「指導者バンク」や「聞いて得するふるさと講座」等の登録者の活用状況（派遣回数）等の変化の実数

また、学ぼうやプラン3の3つの施策のうちの（③主体的な市民活動への支援）から、以下のiiiとした。

- iii 青少年ボランティアの組織等、現状（学生ボランティア（中・高・大）の活用状況）

（3）調査結果（第一段階）

ア 市及び県の各種養成講座修了者の資料（各種養成講座出身者の活用状況について）

◎ 防府市生涯学習ボランティア養成講座の状況（図1）

R5年度は、2回実施し、実質25人の参加者があった。参加者の所属の内訳は、

- ・放課後子ども教室 48%（12人） ・市教委関係 16%（4人）
- ・留守家庭児童学級 12%（3人）・指導者バンク、青少協等 24%（6人）であった。

◎ 県が実施している養成講座○地域協育ネットコーディネーター養成講座

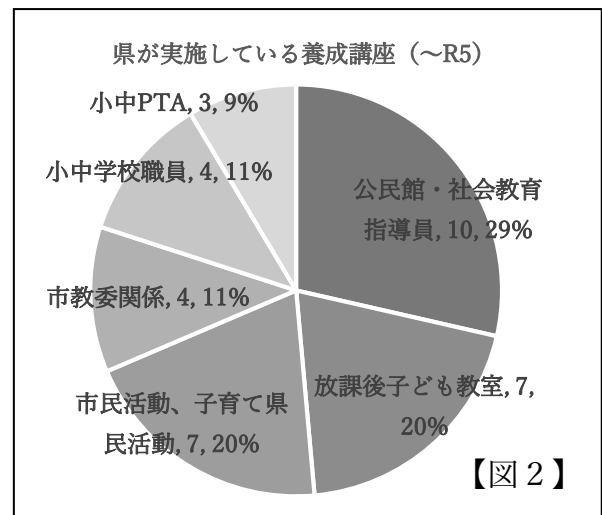
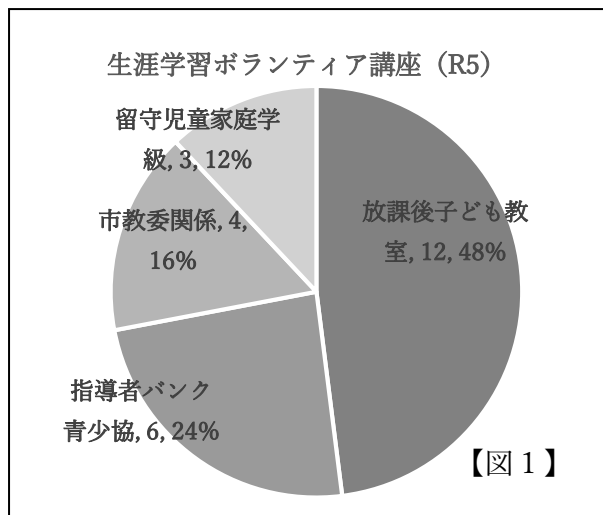
○家庭教育アドバイザー養成講座

○地域協育ネットコーディネーターステップアップ講座

○家庭教育アドバイザーステップアップ講座

R5年度末現在、歴代の受講者は、35人存在する。参加者の所属の内訳は、（図2）

- ・公民館、社会教育指導員 29%（10人）・放課後子ども教室 20%（7人）



・市教委関係 11% (4人)

・小中PTA 9% (3人)

であった。

・小中学校職員 11% (4人)

・市民活動、子育て県民活動 20% (7人)

県が実施している養成講座修了生の活用としては、講座修了者には、情報交換会を実施して、「家庭教育支援チームへ参加してもらう」としている。

イ 「指導者バンク」登録者の活用状況 (図3)

R5年度の派遣回数は 225回で過去最高であった。その派遣先の内訳は

・小中学校 32% (72回)

・公民館 25% (56回)

・放課後子ども教室 16% (36回)

・いきいきサロン 11% (25回)

・幼稚園 4% (9回)

・その他 12% (27回) (自治会、文化センター、社会福祉協議会)

また、登録者数は、個人：101人、団体：52、企業：9である。

この数字は、R3年度から、ほとんど変化はない。

ウ 「聞いて得するふるさと講座」 (図4)

R5年度の派遣回数は、153件で、過去最高となっている。その派遣先の内訳は、

・公民館 23% (35回)

・自治会 20% (30回)

・小中学校 10% (15回)

・福祉センター 8% (12回)

・いきいきサロン 3% (5回)

・その他 35% (53回) (文化センター、社会福祉協議会)

また、登録講座数は、市役所：64、企業：19である。

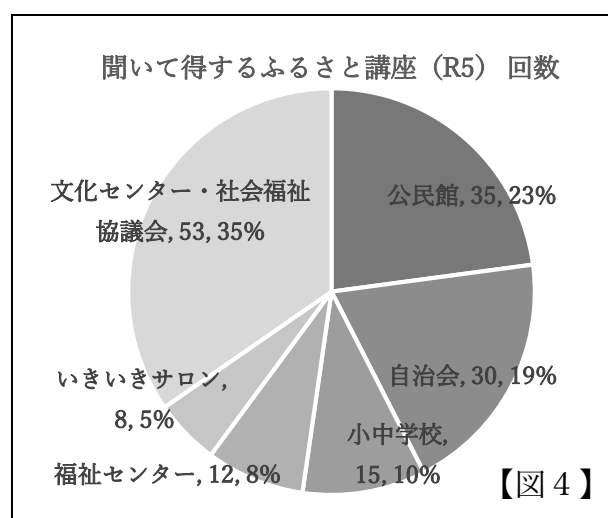
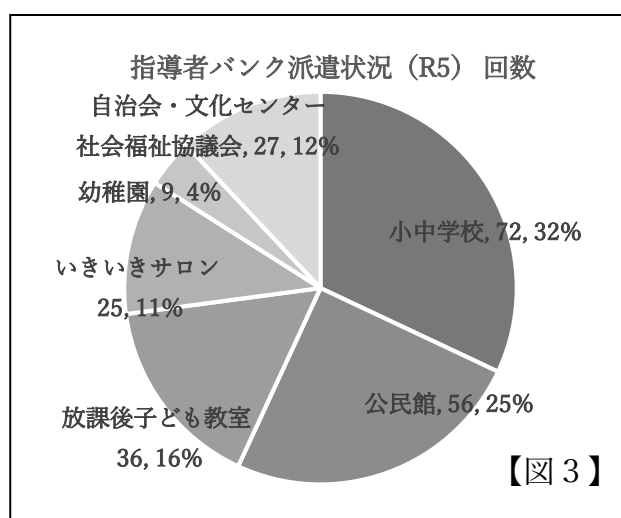
この数字は、市役所は減少傾向であるが、企業は変化なしとなっている。

エ 青少年ボランティアの組織等、現状（学生ボランティア（高・大）の活用状況）について

本市では、青少年ボランティア推進委員会を設置している。

- ・市内5校の高等学校、総合支援学校 ・山口短期大学 ・子ども会育成連絡協議会
- ・社会福祉協議会 ・市ボランティア連絡会で構成されている。

R5年度 生涯学習課からボランティア要請は、3回行われ、出席者は、24名あった。



○ 考察（第一段階）

ア 各種養成講座修了者に関する活用状況等については、追跡調査等が難しく、当初のサブテーマである～養成講座修了者やボランティア人材を通して～の調査研究は、難しいことが分かった。

イ 青少年ボランティアについては、本市には、青少年ボランティアを統括する組織が存在し、活用状況が活発なのかどうか、判断しにくい。

ウ 市民活動支援センターのHP上でボランティアをマッチングすることが可能であるが、このことについては、周知不足であることがわかった。

エ 「指導者バンク」「聞いて得するふるさと講座」等の登録者と活用状況については、それぞれ派遣回数は過去最高となっており、活用が進んでいる。ただし、どちらも登録者数については、ほとんど増えていない状況である。

（4）調査方法の見直し（第二段階）

当初は、集めるデータを防府市教育委員会生涯学習課が所管するものを中心としたが、「各種養成講座修了者」の追跡調査は、データがそろわず、難しいと判断した。そこで、残るサブテーマの「ボランティア人材を通して」を生かすためには、ボランティア人材の育成や活用に関する実態調査のデータが必要であると考え、「ボランティアが活発に

育成されたり活用されたりしているか」について、アンケート調査することとした

ア 調査対象：生涯学習ボランティア団体（資料１－４）

防府市が補助金を交付して活動している団体：各小中 PTA 関係 27、各地区子ども会育成連絡協議会 16、郷土史研究会 6、文化財保護及び継承団体 31、市社会福祉協議会、防府ユネスコ協会の計 82 団体とする。

調査対象は、最初は、より多くの市民の実態を把握したいということで、市内すべての各自治会を対象に考えていたが、各自治会が求めるボランティアは、人数が必要なことに特化しそうであることから、実態把握が難しいと考え、対象を上記に変更した。

（５）調査結果（第二段階）

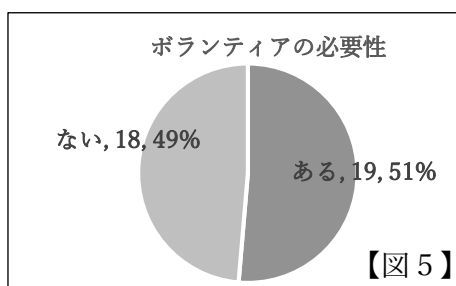
○ 回収率：47%（38 団体／82 団体）

（各調査先の回収率は PTA 関係 63%、市子連関係 44%、郷土史・文化財関係 38%）

○ 各質問項目及び回答の詳細は、別添資料を参照。

○ 質問項目

ア ボランティアを必要とすることがあります。か。（ある：51%、ない：49%）（図５）



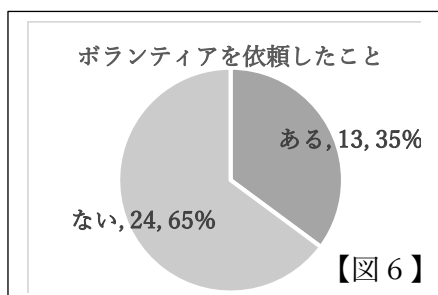
・どのような内容のボランティアを必要としますか。

人数を必要とする内容の時、専門知識や技術を必要とする時、学習支援や図書館関係、野外活動支援等

・必要としない理由は、どのようなことですか。

会員数が多いところは、自分たちで賄える。また、専門的な内容の実施団体は、頼んでも難しい。

イ ボランティアを依頼したことがありますか。（ある：35%、ない：65%）（図６）



・依頼内容は、どのようなことですか。

専門的な知識や技術を必要とする時、人数が必要な時。依頼しない理由は、依頼するということを知らなかったから。

・どこから、どのような方法で、何回ぐらい、何人依頼しましたか。

PTA や人材バンク、市や学校に依頼した。1回～15回程度。1～30人程度。

・依頼した人数は、揃いましたか。困ったことはありましたか。

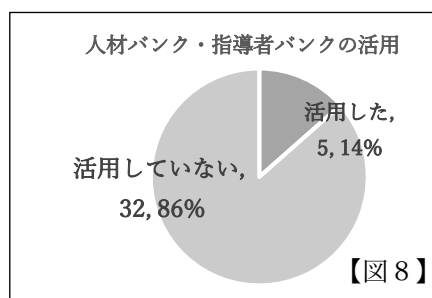
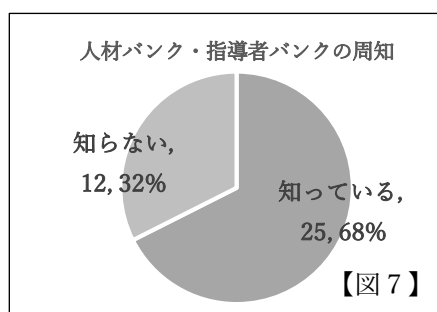
大体、依頼どおり人数はそろった。指導者の後継者不足、高齢化、招集したボランティアの質の問題等がある。

・ボランティアに期待することは、どのようなことですか。

指導者の育成、独自の運営スタッフが不足しているので、即戦力として対応できるボランティアが欲しい。また、専門的な内容に対応できるボランティア派遣組織の充実を期待する。

ウ 防府市が設置している幸せます人材バンク「指導者バンク」を知っていますか。

(知っている：68%、知らない：32%) (図7)



・活用したことはありませんか。

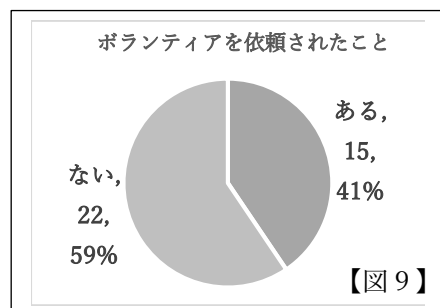
(ある：14%、
ない：86%) (図8)

・活用した方は、その時の感想は。

専門的な知識や経験をもっておられたので、大変良かった。参加者に大好評であった。

エ 他団体から、ボランティアを依頼されたことがありますか。

(ある：41%、ない：59%) (図9)



・どのような内容を依頼されましたか。

地区内の行事の時に依頼される。特に伝統芸能系の祭り等の準備、後始末等の時

・どこから、どのような方法で、何回ぐらい、何人程度依頼されましたか。

地区のお祭り、地区社会福祉協議会、地区独自の例大祭や花回廊、読売マラソン等、市の行事等、1回～10回程度。1～30人程度。

オ 防府市において、今後、生涯学習を推進していくためにボランティア等を活用しやすくするためには、どのようなことが必要だと思いますか。

団体ごとのボランティア活動の実績があると、活用しやすい。「情報ほうふ」などで、市民に啓発活動を行ったりして、PR活動に積極的に取り組むことが必要。

「ボランティア」の定義をはっきりさせていく必要がある。(PTA活動における奉仕活動の対応がボランティアになるのかどうか？会自体が、ボランティア団体なのに、そこが行う活動とアンケートで問うボランティアが混同されてしまうので、答えようがない

かった。)

○ 考察（第二段階）

- ア 質問項目のボランティアという概念が曖昧で、回答しづらいという意見があった。
PTA や子ども会等、そもそもボランティア団体に対して、ボランティアのニーズを聞くということが、無理があったように感じた。そこで、今回の調査結果は、参考程度にしていくこととし、ほうふ幸せます人材バンク「指導者バンク」に関する質問項目は、有効であると思われるので、調査研究に活かしていくこととした。
- イ 今回のアンケートを配布する社会教育関係団体の内、文化財関係の保存活動や継承活動をしている団体が、これほど多くあるということを部会の社会教育委員全員が、初めて知ったという状態であった。
- ウ 今回は、アンケート配布先を生涯学習課が補助金を交付している団体のみに絞って、配布したが、今後は、市役所等の他の課が所管しているボランティア団体の名称や登録、または活動人数を把握していくことを考えたら、防府市の生涯学習の実態がもう少し、見えてくるのではないかと考え、再調査する必要があると判断した。
- 生涯学習ボランティアを実践している団体の数や規模（人数）、実績については、資料1－5のとおりである。

【生涯学習ボランティアを実践している団体の数や規模（人数）、実績】

- | | |
|------------------------|-------------------------------------|
| ○ 市からの補助金をもらって活動している団体 | 合計 82 団体 |
| ○ ボランティア福祉関係団体 | 合計 25 団体 会員数 745 人 |
| ○ 市民活動支援センター登録団体 | 合計 69 団体 会員数 4,861 人 |
| ○ 放課後子ども教室 | 実施回数 215 回 指導者数 414 人 |
| ○ スポーツ推進委員 | 年 2 回ニュースポーツ大会他
定員 24 名中 22 名活動中 |

（6）調査方法の見直し（第三段階）

防府市の生涯学習の実態を把握するためには、社会教育団体・生涯学習ボランティア団体がどれくらいあって、人数的な規模や活動実績について、部会の構成員で把握できる範囲で、調査することとした。

その結果、大変多く団体があり、様々な活動実態があることが分かった。（既に、防府市においては、大人の人材育成や活用は、概ね実践されているのではないかと想像できるくらいの実態である。）

しかし、それぞれの団体において、指導者等（講師を含む）が、人材として育成された

り、活用されたりしているかについて立証するためには、どのような調査をして明らかにするのか会員で協議し、下記の点において、再調査することとした。

ア 防府市以外で「生涯学習の街づくりにおいて、人材育成やボランティア活用を推進し、成功事例をもっている団体や自治体、地域等」を紹介してもらって、防府市と比較し、参考とする。

イ 再調査の方向として、もう一度、防府市の「人材活用」の現状を知るために、

- 市内各公民館における、学級・教室で実施された過去3年間の学習会の内、高評価を得た内容とその理由（要因）、講師名をアンケート調査する。
- 社会福祉関係においては、「いきいきサロン」において実施された過去3年間の学習会の内、高評価を得た内容とその理由（要因）、講師名をアンケート調査する。
（補助金申請された内容のみで可）
- スポーツ関係団体において実施された過去3年間の学習会の内、高評価を得た内容とその理由（要因）、講師名をアンケート調査する。
- 放課後子ども教室において実施された過去3年間の学習会の内、高評価を得た内容とその理由（要因）、講師名をアンケート調査する、こととした。

（7）調査結果（第三段階）

ア 他市町村において、「人材育成のためにボランティア養成講座を実施しているか」について調査を行ったが、事例が少なかった。その中では、防府市が比較的良く実践しているのではないかとされた。

イ 今回のアンケート集計の結果、市内各公民館と放課後子ども教室について、回答を得たが、他の関係団体（社会福祉関係及びスポーツ関係団体）からは、回答は難しかった。

「いきいきサロン」等の運営は、各自治会単位で実施されている場合が多く、運営方法が様々で、実態を把握することが難しかった。また、スポーツ関係団体においては、スポーツ推進委員が主体的に活動しているため、研修においては様々な実践活動が中心であり、特定の講師等を列挙していくことが難しかった。

- アンケート調査結果については、資料1－3を参照。

○ 考察（第三段階）

ア アンケート結果をキーワード等により分析していくと、公民館における学習内容の違いと傾向がみられたし、放課後子ども教室に携わる関係者からは、貴重な意見をたくさん得ることができた。

- 公民館における女性学級と高齢者教室は同じキーワードが多く、親和性が見受けられることから今後は、2つの講座として分けて運営していくことが難しくなるだ

ろうと思われる。

- 公民館における学級・教室の学習内容は、知識学習型と体験学習型、そして娯楽に分けられる。知識学習型で高評価を得ているものは、参加者にとって役立つ知識が得られるもの、そのニーズに沿った内容であるものである。体験学習型では、穏やかにその時間を楽しみくつろぐことができるかが問われていた。共に歌ったり体操したりすることは日々の活動の刺激となった。高齢者にとっては、娯楽は生きがいである。生涯学習の本質が楽しみにあるのなら、質の高い娯楽の提供は、高い評価を得ている。
- 公民館における家庭教育学級の学習内容については、今回の調査では、親子で何かを作り上げる活動が評価されていた。また、それぞれの工夫でアートを楽しむような内容が高評価であった。家庭教育学級は、実施する日時や提供する講座内容に益々の工夫が求められることがわかった。
- イ どの講座においても、高評価を得ている講師は、良い資料を提供してくれた、穏やかで楽しかった、話術がよかった、丁寧で話が分かりやすかった等の実績をあげている方であった。
- ウ 防府市において、各種講座の指導者及び講師の招聘が、同一人物に偏っていて、多くの人材が育成されていなかったり、活用されていなかったりするのではないかと懸念していた。しかし、高評価を得ている指導者及び講師は、調査した範囲においては、半数以上は、新規の指導者及び講師であることが分かった。また、放課後子ども教室において顕著だったことは、できるだけ講師は、地域の伝統文化やその継承者にお願いし、地域の子どもたちに住んでいる地域を誇りに思わせるよう、人材を発掘しようとする方針が垣間見えたことである。
- エ 市の取組において、「指導者バンク」登録者の招聘が、偏らないように、年間6回（春期学ぼうやセミナー、夏期学ぼうやセミナー、わくわく学び塾）を開催していることが分かった。
 - 学ぼうやセミナーは、「指導者バンク」登録講師のうち公開講座登録者全員に、実施希望を募り、実施しているセミナーであり、毎回、20～30ブース実施している。
 - 「わくわく学び塾」を実施しており、講師は、可能な限り新規の登録者に対して実施を要請しているもので、R7年度は4名の方をお願いしている。
 - 今年度の「指導者バンク」登録者は、令和6年5月から令和7年5月にかけて新規が8名4団体おられる。少しずつ、登録者が若返っており、入れ替わっているという状況である。

(8) 課題と今後について

大人の人材育成と活用部会（８名で構成）では、学ぼうやプラン３の実施状況を点検・検証して課題を抽出し、次期の推進計画に反映できるよう方策を検討することとして、調査研究を行った。その結果、次の課題が見つかったので、対策を提案する。

学ぼうやプラン３が取り組もうとしている３つの施策（①生涯学習を支える人材の育成、②学習成果を生かす機会の充実、③主体的な市民活動への支援）に基づいた調査結果からは、４つの課題が見つかった。

【課題１】

- 各種養成講座修了者に関する活用状況等については、講座修了者に関する情報（住所や連絡先等）を前もって登録していなかったため、追跡調査等が難しく、貴重な人材である養成講座修了者を育成、活用できていない。

【対策１】

防府市や山口県で実施されている養成講座を受講する人に対して、受講履歴等、個人情報になるが、今後の活用のため（生涯学習の一環として）に、必要最低限の情報を得るようにする。

【課題２】

- 本市には、青少年ボランティアを統括する組織が存在し、ＨＰ上でマッチングすることも可能であることは確認したが、活用状況が活発なのかどうか、判断しにくい。ただし、このことについては、周知不足であることがわかった。

【対策２】

青少年ボランティア組織が活動しやすいように、ボランティアに関するマッチング機会の充実とＰＲ（広報誌、ＳＮＳの活用）に努める。

【課題３】

- 「指導者バンク」「聞いて得するふるさと講座」等の登録者と活用状況については、それぞれ派遣回数は過去最高となっており、活用が進んでいるが、どちらも登録者数については、ほとんど増えていない状況である。

【対策３】

現在、本市が取り組んでいる「学ぼうやセミナー」「わくわく学び塾」を更に充実させ「指導者バンク」への登録者数を増やすこと。

また、今後も「聞いて得するふるさと講座」の行政サービスの講座数を増やすよう生涯学習推進会議等を活用して、組織で対応すること。

防府市において、「人材の育成や活用」状況を一部のアンケート結果（公民館、放課後子ども教室）等から、次の課題が見えた。

【課題４】

- どの講座においても、高評価を得ている講師は、良い資料を提供してくれた、穏やかで楽しかった、話術がよかった、丁寧で話が分かりやすかった等の実績をあげている方であったり、現代的ニーズに対応した健康志向の講座の講師であったりしている。これらの講師については、各公民館の家庭教育学級、女性学級、高齢者教室、放課後子ども教室のどの講座においても、招聘の要請が集中する傾向が見られる。

【対策４】

高評価を受ける講師についての招聘率は、各公民館や放課後子ども教室等で、情報交換することによって、講座を設定するスタッフが、より多くの講師の存在を共有し、分散化できると考えられる。

また、放課後子ども教室の意見の中に、「できるだけ講師は、地域の方をお願いし、地域の伝統や文化を伝えてくれる人、子どもたちに地域に誇りを持たせてくれる人を活用するように心がけている。」というものがあつた。このような考え方で、今後も地域の人材を発掘するよう啓発していくと良い。

以上、これらの提案は、今回、防府市教育委員会から依頼された「ひとりひとりがきらめく人づくり」の目標に対して、「人材育成や活用」に関する実態調査から、課題解決につながると考えられるものである。

（９）まとめ

大人の人材育成と活用部会では、学ぼうやプラン３の実施状況を点検・検証して課題等を抽出し、次期の推進計画に反映できるよう方策を検討することとして、調査研究を行った。本部会では、調査方針を、防府市の「人材育成や活用に関する実態を把握すること」とし、学ぼうやプラン３が取り組んでいる３つの施策（①生涯学習を支える人材の育成、②学習成果を生かす機会の充実、③主体的な市民活動への支援）について、進捗状況等、現状を把握することを目指し、そこから課題を明らかにし、今後の対策を提案することとした。

そこで、テーマを設定しながら、点検・検証に取り組んだが、学ぼうやプラン３の目指す３つの施策に関するデータの収集は、これまでの防府市の保有するものだけでは、難しい状況であったため、サブテーマを当初の「～養成講座修了者やボランティア人材を通して～」から、紆余曲折しながら、最終的には「～防府市における生涯学習団体の現状からみる～」とした。

本市における「人材育成や活用について」を調査して、社会教育委員として本市の生涯学習の実態が初めて分かったことが多く、この調査によって、本市の生涯学習の活動が誇れるものだと実感した。特に、本市においては、各種講座の指導者及び講師の招聘については、調査の仮説では、同一人物に偏っていて、多くの人材が育成されていなかったり、活用されていなかったりするのではないかと懸念したが、高評価を得ている指導者及び講師については、調査した範囲においては、半数以上は、新規の指導者及び講師を活用していることが分かった。もちろん、高評価を得ている講師は、良い資料を提供してくれたり、穏やかで楽しかった、また、話術がよかった、丁寧で話が分かりやすかった等の実績をあげている方であったり、現代的ニーズに対応した健康志向の講座の講師であったりしているので、招聘の要請が集中する傾向ではあったが、仮設で立てたほどの偏りではなかった。

また、放課後子ども教室をはじめ、講座を開設する各スタッフが、常に「人材発掘や人材育成、そしてその活用」を心がけており、各地域に根差した、地域を誇りに思う人材の育成を目標としているということが分かり、今回の調査研究が大変有意義であったと感じている。最後に、今回のアンケート調査結果からも多く出てきている指導者の高齢化と指導者不足が大きな課題となってきた。このような課題に対しての対策案は今後も継続して考えていきたい。

2 子どもの人材育成部会

(1) 部会のテーマ

◎「子どもの人材育成について」

～ほうふみらい塾の活動を通して～

○テーマ設定の理由

本部会は、防府市が目指す「教育のまち日本一」を実現することを目指していることから、未来の防府を支える子どもの人材育成を目指すことが重要であると考え、部会研究テーマを「子どもの人材育成部会～ほうふみらい塾の活動を通して～」とした。

防府において、すでに有用な子どもの人材育成が行われているのではないかと考え、子どもの人材育成に関わる既存の団体の行事に参加して、聞き取りや写真記録をとりながら取材をすることにした。

とりわけ、『菅公みらい塾』の立上げから11年目に入った『ほうふみらい塾』の「生活・文化体験活動」、「自然体験活動」、「社会体験活動」を通して、取材や聞き取り調査を行うことで、どのように運営をされているのか、を探っていきたい。

本報告は、さまざまな組織の代表である社会教育委員から見た『ほうふみらい塾』への今後の期待を込めたものである。

(2) 調査の概要

ア 調査目的

この調査の目的は、『菅公みらい塾』として立ち上がった『ほうふみらい塾』が、10年の時を経て、どのような人材育成をしているのか、また、他団体の人材育成活動について調査することである。

イ 調査方法

調査方法は、現地視察・聞き取り調査である。調査対象は、まず、ほうふみらい塾の活動である。具体的には、現在のみらい塾の活動の視察・聞き取りと、立ち上げ時の聞き取りである。また、市子連のたこあげ大会や国衙寺子屋の子ども自治会長選挙の取組を調査することとした。

ウ 調査期間（令和6年5月～令和7年8月）

令和6年6月29日(土) 13:30～16:00 ほうふみらい塾「開講式」

令和6年10月6日(日) 12:30～16:00 ほうふみらい塾「こども文化祭」

令和6年12月14日(土) 13:30～16:00 ほうふみらい塾「塩田公園」

令和 7 年 12 月 8 日(日) 9:00～14:00 市子連「たこあげ大会」
 令和 7 年 2 月 1 日(土) 13:30～16:10 ほうふみらい塾「閉講式」
 令和 7 年 6 月 21 日(金) 13:30～16:00 ほうふみらい塾「開講式」
 令和 7 年 8 月 5 日(火) 10:00～10:40 菅公みらい塾聞き取り調査①
 令和 7 年 8 月 6 日(水) 10:00～10:40 菅公みらい塾聞き取り調査②
 令和 7 年 8 月 6 日(水) 10:00～11:30 国衛寺子屋「子ども自治会長選挙」

(3) 調査結果と考察

第 1 回調査…ほうふみらい塾「開講式」(文化福祉会館 3 階)

ほうふみらい塾とは何かを担当指導主事が説明。教育長挨拶、ほうふみらい塾卒業生の励ましの言葉、令和 6 年度の予定の説明、記念撮影があった。



〈基本講座〉は下記の通りである。

○第 1 回 6 月 29 日(土)13:00～16:00

開講式 働く人！防府の企業を知ろう！

【内容】仲間づくりをします。第 2 回職場体験の準備をします

【講師】防府ロータリークラブ会長白石民彦氏

○第 2 回 7 月 30 日(火)9:30～11:30 (協力企業先)

地元防府の会社に行こう！体験しよう！

【内容】防府ロータリークラブの企業を訪問し職場体験をします

○第 3 回 8 月 31 日(土)10:00～17:00 (三友サルビアホール控室、文化福祉会館)

みらい塾でこども文化祭を盛り上げよう！

【内容】こども文化祭の運営(司会・受付・出演者案内等)

○第 4 回 9 月 29 日(日)9:30～11:30 (防府市創業・交流センター)

TEPIA に参加！プログラミング体験だ！

【内容】TEPIA 先端技術館のアウトリーチ事業に参加してプログラミングを体験します

○第 5 回 11 月 9 日(土)13:30～16:00 (防府天満宮大専坊跡、周防国分寺、佐波神社)

いっぱい歩いて、いっぱい防府を知ろう！

【内容】防府天満宮・国分寺・佐波神社周辺のポイントを巡ります

【講師】梶 雅子氏(文化振興課) 【お手伝い】高校生ボランティア

○第 6 回 12 月 14 日(土)13:30～16:00 (三田尻塩田記念産業公園)

防府市は塩で栄えたまちなんです！ソルトのまちなんです！

【内容】塩づくり体験、豆腐づくり、塩むすびの味比べをします

【講師】三田尻塩田記念産業公園園長及び指導員

○第7回 1月18日(土)13:30～16:00(防府市創業・交流センターデザインプラザHOFU)
1年間の学びをプレゼンにまとめよう！

【内容】1年間の学びをタブレットを使ってまとめます

○第8回 2月1日(土)13:30～16:00(防府市創業・交流センターデザインプラザHOFU)
閉講式 1年間で学びをプレゼンにまとめよう！（発表）

【内容】前回作成したプレゼンを使って発表します

〈オプション講座〉

○「野外活動 in 野島」【内容】カヤック体験

〈考察〉

開講式では、市内から集まった子ども達が、前向きに活動していく意欲を見せてくれた。また、保護者も安心して説明を聞いていた。参加した社会教育委員は、10年続いていることと、子どもの主体性を育みながら防府のよさを知る体験活動内容に驚いた。

第2回調査…ほうふみらい塾「こども文化祭」(三友サルビアホール)

8月31日(土)に行う予定のこども文化祭は、台風接近のため、10月6日に延期された。



出演団体は、防府天満宮神楽舞「紅わらべ保存会」、大道小学校お笑い集会、天神囃子「梅っ子」、春日鬼太鼓である。ゲストは、安芸高田市日吉子ども神楽団、ソレイユトリオ（音楽演奏）。文化祭の司会・運営が、ほうふみらい塾の子どもたちである。

主催は、こども文化祭実行委員会。後援は、防府市、防府市教育委員会、防府市文化協会、(公財)防府市文化振興財団。助成は、(一財)地域創造である。

当日配られたパンフレットには、以下のように紹介されていた。

防府市教育“夢”プロジェクト『ほうふみらい塾』は、小学校5年生から中学校2年生までの児童生徒35名が年間を通じて様々な活動に取り組んでいます。11年目となる今年度も『防府で学ぶこと、防府を学ぶこと、防府から学ぶこと』をキーワードに、防府の文化や歴史、産業等について体験（実践）的に学び、その魅力を発信していきます。子どもが主役で感動のある文化祭を創り上げるため、全力でお手伝いさせていただきます。

〈考察〉

ほうふみらい塾の塾生が、主体的に進行・運営を行っていた。塾生一人一人が全力で自分の仕事に努めていた。来場者を笑顔で迎え丁寧に応対する受付、出演者へ心配りのある

控室担当、慣れない進行を一生懸命する司会、見ていて微笑ましかった。実際には、司会進行では、間が空いたりスムーズに進行できなかつたりすることもあったが、子どもに任せる所は任せる姿勢、子どもの主体性を尊重する姿勢が見られた。

第3回調査…ほうふみらい塾「塩田公園」(三田尻塩田記念産業公園)

塩田公園体験活動の目的は、荒瀬学校教育課長の挨拶が、的確に表している。

「…。今回のほうふみらい塾は『防府は塩で栄えたまち』、ソルトで栄えたまちなのです。防府ならではの、みらい塾ならではの体験ができそうですね。防府市はかつて日本で最大級の塩田があった町です。三田尻でできた塩は全国各地に運ばれました。ここ、三田尻塩田記念産業公園、講師の皆様から今日は防府市の塩にまつわる様々なことを教えてもらうことになっています。塩づくり体験をさせていただけるということで、自分たちで作った塩を味わってください。きっと、ひと味も、ふた味も違う塩だと思います。今日の講座を通して、皆さんが防府市の塩博士になってほしいと願っています。…。」

続いて、『菅公みらい塾』立上げ元教育長、杉山園長さんのお話。

「今日は皆さんの五感を使って、日頃の活動では五感と使うことはないけれども、五感を使っていきたいと思います。一番大事なのは、この触覚。今日は、五感の中では触覚を使って塩作りを体験してください。今、課長さんの挨拶に、三田尻塩田の大きさを言われましたが、日本では有数で、赤穂という所が江戸時代が一番有名でしたが、ただ明治になってからは、防府の三田尻塩田が一番たくさん塩を生産していました。

ここに専売公社ができました。塩の専売をして塩の試験場があったから、その関係で、防府から塩の作り方が日本で伝わっていったのです。そういう関係で、日本で一番塩が採れた時がありました。そういう所で皆さんは生活をしているのです。なかなか知ってもらっていない。今初めて聞いた人？日本で一番とか、これほど広い塩田があったとか。(参加した塾生の半分以上が手を挙げる) ありがとう。今日は、そういった知識ではなくて、技術とかものづくりとか、裏付けされたところで塩が作られていた。『どういうふうに』、そこが、知識ではなくて知恵。今度は君たちが将来生活するうえで、いろいろなところで役立てるような知恵まで深く学び取っていただきたいな。それが、みらい塾の塾生の使命ではないかと思っています。…」と、みらい塾の使命について言及された。

園長「昔の塩田でどういうふうにして塩を作っていたのか、その塩田の広さは、(カーテンを開ける)今はわずかにこれだけです。当時の5000分の1、しかない。」に、「ええー。」と塾生が驚嘆。



〈考察〉

防府市塩田記念産業公園での「ほうふみらい塾」の講座「防府は塩で栄えたまち」に、前半部分少しだけ参加しただけで、決定的に価値づけることはできないが、防府市の子ども育成のために多くの示唆を得ることができた。

第一に、関わる大人の丁寧さである。次に、ほうふみらい塾の塾生への敬意、リスペクトである。また、丁寧で、温かさがある。さらに、園長先生をはじめ塩田公園職員の伝えたいという熱量の多さ、技術を説明し表現力として塾生に出す強さである。

全体を通して、社会教育主事による塾生への的確な指導が徹底していた。子どもの目的意識が希薄な場合や、指導力不足によって、ややもすると、大切な話を聞いていなかったり、指導者の説明中に私語をしてしまったりする場面が散見されることもあり得る状況の中で、塾生は、礼節をわきまえ、望ましい集団行動をしていた。

こうした、社会教育関係の先生方と、塩田公園職員の渾身の努力によって、参加した子どもたちには、塩作り体験を通して、まさしく「深い学び」になっていると感じることができた。

このように、ほうふみらい塾の塩づくり体験の営みが、防府の自慢である塩作りの伝統を先人から受け継ぎ、将来防府市に貢献しようとするこれからの人材育成の場となっているのではないかと推測される。

第4回調査…市子連「たこあげ大会」(潮彩市場西側広場)

「たこあげ大会に参加する皆様、テント前に集まってください。」



ジュニアリーダー(以下J R)が進行・運営をしていた。

J R「ただ今から第35回防府市子ども会たこあげ大会の開会式を開催します。」(拍手)「始めに主催者を代表いたしまして、防府市子ども会育成連絡協議会会長藤井孝造よりご挨拶申し上げます。」

藤井会長「…。第35回防府市子ども会たこあげ大会を開催できることをたいへんうれしく思っています。…さあ、皆さん、今日は絶好の風が吹いています。力作風を大空に高く上げて大いに楽しみましょう。また、各校区の売店、抽選等多彩な催し物もあります。そちらも大いに楽しんでください。…。」(拍手)

防府市子ども会育成連絡協議会事務局へ取材をした。

「防府は他市より子ども会が盛んだというふうに思っているのですが。」の質問に、「他の市町よりは、防府市の子ども会は加入者もパーセンテージで多いですし、活動内容というのも、他のところと比べたら数が多いかなと思います。多いのは、やはり役員の皆さんが、子どもたちが楽しめるようにと尽力されていますし、思いをもって活動されている方

が多いので、子どもたちも参加していて楽しいと思ってくれているので、そういった企画をした時に子どもたちがすごく参加してくださるので、それで継続をしていけているのではないかと思います。」と、子ども会活動が活発な理由を聞くことができた。

「うちも子どもが小学生の頃、スポーツ大会へ参加をしていました。中学生になって、中高と、高校を卒業してからもしばらく、自分の地区の子ども会の、スポーツ大会がある時なんかは、自分が経験をしていますので、指導者として小学生に教えてあげるといった活動をしていました。そういったつながりですね。やはり、自分が経験したことを次の世代の子どもたちにまた…」と、持続可能なつながりを示唆している。

「入ってきやすい雰囲気づくりも大切です。どなたが来られても、受け入れる側として、入ってきやすい、壁がないようにしたいので、どなたでも本当にウエルカムの形で受け入れてはいます。」と、受け入れ態勢を述べている。

「今日、協力者からは、どのような協力があるのでしょうか？」の問いには、「今回たこあげ大会は、皆さんにたこあげ大会のお楽しみとして、最後に抽選会があるのですが、そちらの抽選券を購入していただくことで、この大会を運営しています。購入していただいた費用で開催しているのですが、その中で抽選券の景品も買わせていただいて、それを皆さんに還元している形になります。ですから、子ども会の会員の皆さんに協力をしていただいて、ということです。」と、協力の下でたこあげ大会が成り立っていることに感謝している。

防府市子ども会に所属してもらっているジュニアリーダークラブというクラブがあることについてふれ、「そこに所属している高校生リーダーが自主的にこういったお店を出して子どもたちに楽しんでもらおうというので、バルーンアートもジュニアリーダーが練習をして子どもたちに喜んでもらおうという思いで、今日はお店を出しています。」

〈考察〉

子どもの人材育成部会の一員として、防府市子ども会育成連絡協議会たこあげ大会に参加した。当日は、晴天かつ風速5mの風で、たこあげ大会にはちょうど良い風の強さになった。以下は、たこあげ大会全体を見て、肌で感じたことである。

○子どもも大人も楽しめるたこあげを長年続けていることの尊さを強く感じた。

○各地区子ども会がいろいろなお店を開いて活発な活動を繰り広げていた。

○お互いに売り上げに協力している姿を多く見ることができた。

○このたこあげ大会によって、地区子ども会同士の交流が盛んになっている。

○ジュニアリーダーが司会進行をする姿はまさしく子ども主人公の大会である。

○進行で、たどたどしい場面もあったが、参加者全員が好意的に受け止めていた。

○子ども会のことについて、ジュニアリーダーのことをもっと聞きたいと思った。

以上のように、市子連の組織力がしっかりしていること、次代の要請に応えようとして

いること、が今日まで続いている大きな理由であると推測された。

第5回調査…ほうふみらい塾「閉講式」(市役所8階防府市文化センター)

塾生全員が、プレゼン発表した中で、とりわけ2人の発表を取り上げる。

◆発表者A:(拍手)「1年間の活動を振り返って、自分が見つけた防府の好きなところは、歴史と文化がいっぱいあるところです。例えば、歴史ある建物や防府の歴史を知ることができました。自分が見つけた防府のよいところは、教えてくれる人が多いことです。塩田公園では、塩のでき方や作り方をやさしく教えてくださいました。自分が望む防府の未来は、若い人が活躍できる街です。いろいろな人たちが活躍して、防府が発展していけばよいなと思っています。みらい塾の1年を振り返って、多くの経験をし、有意義な1年になりました。ご清聴ありがとうございました。」(大きな拍手)

◆発表者B:(拍手)「1年間の活動を振り返って、私が見つけた防府の好きなところは、やさしい人がたくさんいるということです。なぜなら、プログラミングを体験した時、高校生がやさしく教えてください、塩田公園に行った時も、やさしく昔から続く塩作りを教えてくださいました。

私が見つけた防府のよいところは、文化を守り、伝統を重んじる人がたくさんいることです。塩田公園では、歴史ある塩作りをしていたり、子ども文化祭では、子どもは子どもで、大人は大人で、文化を守っている人がたくさんいたりすることです。

私が望む防府の未来は、皆が暮らしやすい街です。そのためには、子どもが自由に遊べる施設を作ったり子育てをしている家庭を支援したり、働いている人が健康に生活できる取組をしたりする。子どもが自由に遊べる施設とは、私はいつも遊ぶ時に公園ではボール遊びができないので、もっとボール遊びができる場所を作ってほしいと思います。また、小さい子が遊べるような場所があればよいと思います。子育てをしている家庭の支援については、子育ての支援をしたらよいと思います。例えば、食品や子育て支援をしたらよいと思います。具体的には、子育てをしている人たちにアンケートをとったらよいと思います。働ける人が、仕事と普段の生活を楽しんで毎日送ることができたら、もっと世界で活躍できると思います。そして、皆が協力していくともっと良くなると思います。



思います。高齢者への支援については、若者がおじいちゃん、おばあちゃんに関わる

ことで、もっと元気になって、防府市全体が元気になると思ったからです。みらい塾の1年間の活動を振り返って、防府市の未来を今見直すことができました。そして、友達と協力することができました。」(拍手)

続いて、修了に当たって、江山稔教育長の挨拶の概要である。「修了、おめでとうございます。課題を見つけて取り組む。本年度を含んで、361人。2014年『菅公みらい塾』が始まり、2021年『ほうふみらい塾』に名前が変わり、現在まで11年間続いています。…。まだまだ私も勉強の途中です。今防府市は89歳。あと11年経ったら防府市も100歳になります。豊かな自然と歴史と文化のまちとして、応援してほしいと思います。…。」

さらに、中学2年生全員が、励ましの言葉を小学5・6年生、中学1年生に贈った。

◆C「ぼくは中学1年生になってから、みらい塾に参加しました。忙しくてなかなか皆さんと交流することが難しかったですが、数少ないチャンスで皆さんと一緒に学んで、とてもよい経験になったので、中学3年と高校生活にも役立てていきたいです。」

◆D「ぼくは小学5年生からみらい塾に入って、野島やフェスタへ行きました。普通ではできないことが経験でき、先生方ありがとうございました。小学校の皆さんも頑張ってください。」

◆E「私は中学1年生からみらい塾に関わってきましたが、今回2年になってからは、なかなか参加できなかったの、先生方にはご心配をおかけし、たいへん申し訳ございませんでした。私は、昔から歴史が大好きで、防府みらい塾で体験させてもらって、ますます興味が湧いて、自分の心を動かされて、勇気が湧き出るし、自分の生活の支えにもなっています。

歴史は覚えるのが難しいという人も、たくさんいるかもしれないけれど、学べば学ぶほど、どんどん興味が出ておもしろく感じるの、防府の歴史、防府以外の多くの歴史についても、皆に知ってもらえたらなと私は考えています。私たちは、これから受験生でたいへんな毎日になっていくと思うのですが、今の小学生の皆さんも、自分はできると信じて前に突き進んでください。」(拍手)

〈考察〉

ほうふみらい塾の閉講式は、新市庁舎8階で行われた。当日は雨の中、多数の保護者・家族も参加していた。以下は、気付きを箇条書きに列挙したものである。

○エリートではない公募の集団として、多様な子どもたちが参加可能となっている。

○塾生がiPadを資料として使用することで、塾生と塾生、塾生と先生の双方が情報の共有化をしていた。

○ほうふみらい塾は10年以上継続している。積み重ねてきたみらい塾の真価は、防府にとって影響力が大きいと思われる。

- 参加する気になれば、すべての講座に参加することが可能で、防府の自然・産業・歴史・文化など、多様な体験に富んでいる。
- 野島カヤック体験や右田ヶ岳登山などアクティビティに富んだオプション講座があることで防府の自然を平面的・立体的に学ぶことができた。
- 一度体験してみて、よかったら次の年も、何年か空けて再度塾生にということも可能である。何回でも参加可能であり、リピーターも歓迎されている。
- プレゼンの発表で終わるのではなく、コメンテーターとして、プレゼンの発表を聞いて、感想や気付きを述べることで、重層的な深い学びになっている。また、発表とコメントが相互補完してより質の高い学びができています。
- 発表やコメントが続く中で、後になるに従って、発表やコメントが上手になっていることから、自ずと塾生同士の学び合いができ、深い学びになっているといえる。
- 塾生一人一人が、「自分の学びをプレゼンする力」、「コメンテーターとしてコメントする力」、が養われ、自己表現力がついてきている。
- 中学2年生が下級生へ贈る言葉を届ける姿を見て、物怖じしない塾生として堂々と振る舞い自主性、主体性が育っていると感じた。
- 塾生は、生き抜く力として、主体的、対話的で、深い学びを身につけてきている。
- 講座に欠席していても、友達の発表や写真等から多くを学んでいる塾生もいた。
- 講座を計画した関係者への感謝の言葉「ありがとうございました。」が、プレゼンにあると、拍手も大きい。また、コメントを発表する塾生の言葉に「ありがとうございました。」という感謝の言葉があると、拍手も大きく感じた。

以上のように、塾生同士、塾生と指導者が、お互いにリスペクトしている姿が多く見られた。また、みらい塾と講座に協力している関係機関が、相互に知り合う win-win の関係になっていると感じられる。

第6回調査…ほうふみらい塾「開講式」(市役所8階防府市文化センター)

教育長挨拶では、教育長の渾身の思いを込めて、新塾生に励ましの言葉が届けられた。塾卒業生の挨拶では、市で採用された元塾生の男性と女性の2人が、『ものの見方を変えることができるようになってほしい』『困っている人に手を差し伸べる人になってほしい』と、現役塾生に力強く話しかけていた。(資料2-1参照)

〈考察〉

教育長挨拶では、塾生の生活を第一に考えた言葉を使って、塾生も保護者も安心した様子が見かけられた。また、塾卒業生の挨拶では、社会に出たばかりにもかかわらず、市役



所職員として全力で職責を担おうとしていることに驚かされた。

第7回調査…菅公みらい塾「聞き取り調査①」（社会福祉法人華陽会新田保育園）

菅公みらい塾を立ち上げた岡本昭彦元防府市教育委員会学力向上推進室長（のちに学校教育課長、現新田保育園長・山口大学大学院特任教授）から聞き取り調査（資料2－2参照）をした。

第8回調査…菅公みらい塾「聞き取り調査②」（社会福祉法人華陽会華陽保育園）

菅公みらい塾の運営を軌道に乗せた川本尚貴元防府市教育委員会指導主事（現松崎小学校長）から聞き取り調査（資料2－2参照）をした。

第9回調査…国衛寺子屋「子ども自治会長選挙」（国衛会館）

前回の報告書に記載した、地域防災の一環として子ども防災教室を行っている国衛寺子屋では、地域自治会と同じように、子ども版の自治会を想定し、子ども自治会長選挙を行い、地域の活動を活性化している。その様子を取材（資料2－3参照）した。

（4）課題と今後について

ほうふみらい塾では、『防府で学ぶ、防府を学ぶ、防府から学ぶ』ことで、帰属意識、アイデンティティが養われ、塾生一人一人のこれからの「防府探究の出発点」「防府貢献の出発点」となっている。

課題としては、

- ①実証的に数値化されたものを提示し、比較検討できるようになれば、実態が分かりやすい。継続調査、追跡調査が必要である。
- ②認知度をあげる工夫も大切である。ほうふみらい塾を各学校に、市内児童生徒に浸透させる。市内のだれもがこの塾の活動を知っている状況にする。

部会では、課題①の解決策として、塾生の入塾の動機や、将来の目標と、参加したことで家族が変化したか、塾生本人がどれだけ変わったか、保護者がどう変わったかも、調べると新たな知見が得られる可能性が高いという意見が出た。また、閉講式での子どもの発表から、希望・願望を実現するのが我々の課題であり、子どもからの一方通行にしないことも大切である。課題②の解決策としては、みらい塾でどんな思いでどんなことを学んだかを各学校に戻って、全校集会などの機会をとらえて塾の取組を広めていくことが重要である。

今後は、防府を深く知り、防府に強い誇りをもち、防府に貢献しようとする意欲をさら

に育てる。また、豊かな体験活動から、満足感、充実感を通して、自己肯定感、自己有用感、自己抑制力をさらに高め、感謝からくる謙虚さを培う。さらに、友達とのネットワーク、社会とのネットワークを築いていける人になるとともに、出会った人と良好な関係性を築く人になっていく人間関係調整能力もしっかりと育ててほしいところである。

(5) まとめ

子どもの人材育成部会では、ほうふみらい塾の活動を通して、社会教育委員の会議で議論しながら、みらい塾を中心に調査してきた。

菅公みらい塾第1期生の保護者アンケートから、【動機】は「6年生の時、校長先生から声をかけられて家族で話し合った。」「4年生の時、担任から声をかけられた。」とあった。動機に関しては、担任の呼びかけ、本人の意志、家族の理解が不可欠であろう。

また、【みらい塾に参加後に子どもの変化、家族の変化】については、「防府の知らない所をたくさん学ぶことができ、大好きになったと思います。毎回、よく話をしてくれました。」(この塾生は中学生になって、姉妹都市モンロー市へ短期留学している)、「元々、歴史に興味があり、本人の意思で参加。リーダー的な性格ではないが生涯学習の場で発表する機会があり、異年齢でのグループ活動で、協力している姿が頼もしく見えた。その後中学へ進学。在学中に全国大会へ出場。チーム一丸となってベストを出せた。社会人になった今、機械系の会社で上司や部下に恵まれ、仕事を頑張っている。(防府から出ていますが、その土地の歴史に触れていると思います。)

次に、【これからのみらい塾に期待すること】では、「子ども達が防府のことを大好きになり、自慢できるようになってくれればうれしいです。」「まずは防府の歴史に興味をもち、そこから視野を広げていろいろなことを経験する『みらい塾』になってほしいです。」と記述している。

さらに、【自由記述欄】では、「みらい塾を運営している方々に感謝の気持ちでいっぱいです。」「一期生として、みらい塾へ参加しました。子どもは、小中高と歴史に関しては、気になる所を調べるとか、本を読んだりしていたのを思い出しました。この経験が、社会人になった今、仕事やプライベート面で役に立っているのではないかと思います。」と、それぞれ感謝の念を表している。

以上は、保護者からのみらい塾への思いであるが、塾を現場で調査すると、これまでの講座の積み重ねによって、人材は育成されているというより、「人材は創造されている」という印象を受けた。ほうふみらい塾は、有用で貴重な人材育成の場になってきていると言えるのではないかとと思われる。積み重ねてきたみらい塾の真価は、防府の未来への影響力が大きく、人材育成の好循環になっていくことが期待される。

続いて、『ほうふみらい塾』の前身『菅公みらい塾』に当初関わった人物として、2人か

ら聞き取り調査、1人からアンケート調査をした。(資料2-3及び2-4参照)

開設時の思いや期待は、「この菅公みらい塾はエリートの育成を目指しています。皆さんの友達…エリートと言っても算数、国語のテストの点が満点に近いということではありません。皆さんが住むこの防府市を愛することによってエリートになってほしいと願っています。」と語った、岡本教授(山口大学大学院、元学力向上推進室長)の言葉が如実に表している。

また、当時の川本校長(防府市立松崎小学校長、元担当指導主事)は、教育委員会と学校の間を、「菅公みらい塾、今のほうふみらい塾、そういう取組があるので、やはり、一方的に学校が教育委員会から指導を受けるのではなくて、教育委員会も学校から学ぶものがあるのでしょうし、だから、本当にお互いに伴走しながら学校支援と、学校の管理職としても、指導主事の人材育成に関わっていききたいし、市教委の先生方、指導主事も、学校の人材育成に関わってほしいと思います。」と述べ、未来塾で子どもの人材育成を通して、教育委員会の人材育成と学校の人材育成の相乗効果を期待している。

神田橋校長(宇部市立上宇部小学校、元担当指導主事)は、みらい塾参加者の1年間を通しての変化についての中で、『学校とは違う学び』を体感した子どもたちは、新たな視点や広い視野を持つようになっていたように思います。地域の素材で学ぶ、学びの場に自ら出向く、他校の子どもたちと学ぶ、異校種の子どもたちと学ぶ——こうした学校とは異なる要素が、子どもたちに刺激を与え、新たな視点や広い視野を獲得する要因になっていたように感じます。もちろん、子どもによって変化の度合いは異なりますが、コミュニケーションの取り方が少しずつ上達していく様子も見られました。「学校とは違う学び」による効果だと思います。」と述べ、みらい塾に見られる『学校とは違う学び』の重要性を示唆している。

みらい塾に参加した子どもは、困難に立ち向かう闘志や挫けない気概を指す「グリット(grit)」(「やり抜く力」または「粘る力」と定義されている)が養われ、時代の波を生き抜く大きな目標ができるとともに、関わった大人から大きな期待をされることで、これからの頑張りにつながっていくであろう。

これからは、「令和の日本型学校教育」の姿の一つである「子どもの学び」が重要であり、その学びは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている姿で、学校と地域がともに関わり合って進化していけるかどうかにかかっている。この「個別最適な学び」と「協働的な学び」が一体的に充実されている姿として、ほうふみらい塾は、時代の要望に応えるものであるといえるのではないだろうか。

最後に、みらい塾に携わった教育関係者がその手腕を高く評価している土手ほうふみらい塾コーディネーターは、子ども人材育成部会での説明で、「子どもが楽しいと思うには、親が楽しいと思われなければならない。」と述べ、親が積極的に楽しむ姿勢が大切ではない

かと指摘している。私達大人一人一人が、郷土防府を楽しく学んでいく姿勢を、あらゆる機会に、あらゆる場所で、生涯を通じて、子ども達へ見せるようにしていく必要がある。

IV おわりに

新型コロナウイルス感染症の拡大により、人と人とが対面でつながることが困難な時が長く続いた。

そのような中において、令和3年度から5年度、令和5年度から令和7年度の2期にかけて「第3次防府市生涯学習推進計画（学ぼうやプラン3）」に掲げられた3つの基本目標について調査・研究を行ってきた。

令和3年度から令和5年度にかけては「いつでもどこでも学べる環境づくり部会」「学びを通じてつながる地域づくり部会」として、公民館事業の学習プログラムや学習提供の比較検討から見えてきた現状と課題、中学校生徒の「学び直しの時間」小学校児童の「九九教室」等に住民が関わっている事例研究をまとめた。

今回の調査・研究では、はじめに述べたとおり、「ひとりひとりがきらめく人づくり」を調査研究のテーマとして、「大人の人材育成と活用」「子どもの人材育成」の両部会で研究協議をし、アンケート調査や分析、現地訪問や取材を通して考察を行った。

「大人の人材育成と活用部会」はアンケートを通して、生涯学習の指導者や講師が活発に育成されたり活用されたりしていることが分かった。

「子どもの人材育成部会」は現地視察や取材、聞き取り調査等を通して、「ほうふみらい塾」における人材育成活動の実態を知ることができた。

短期間であったが、両部会長のリーダーシップのもと、様々な好事例から具体的な方策を導くことができた。

最後に、ご多用の中、アンケート調査や訪問調査にご協力いただいた関係各位に対して、心から感謝申し上げます。

アンケート集計表 (まとめ)

アンケート送付先 (PTA関係：小学校17校、中学校9校、事務局1、計27) (市子連関係：事務局1、地区15、計16) 社会教育団体関係 (郷土史6、市2、文化財・保存活動31、計39) 総合計：82
1月30日現在の回収：PTA関係17/27 (63%)、市子連関係：7/16 (44%)、社会教育団体 (文化財関係：14/39) (38%) 総合計38/82 (回収率47%)

質 問 項 目				
1	ボランティアを必要とするか	①	する	19② しない
2				
(1)	① 必要とする理由	・着付け、片付け等、・実行委員会の40名は、すべてボランティアであり、計画・運営・設営を年々、変化を考慮し変換。・準備(3時間)と本番片付け(3時間)、直会の配膳(3時間)、直会の配膳(3時間)・境内清掃・天神囃子の指導、育成・学校備品の作成の補助等・郷土史に詳しい方・史跡等の案内ができる方・学校備品の作成の補助・人手を必要とするとき(足りないときがある)・人数を必要とする大掃除や行事の立降など・地域の夏祭りの運営に参加・バザーなどの運営時、学内でのお手伝いさんが不足するとき・授祭りの接客、駐車場・海岸清掃、子どもたちの校外学習・文化祭のバザー・学校行事等の支援・学習ボランティア、図書ボランティア、夏祭りにおける屋台の運営や夏祭りの準備(テント張り等)・子どもの育成に関する内容、野外活動の指導者に係る内容		
(2)	② 必要としない理由	・必要とする分野がない。・必要と感じない・自分たちの活動は、会費で実施しているため、組織内人員で運営ができていくため。・全員ですべて対応している。・ボランティアを必要とするようなイベントがない。・以前から必要としていなかったから。・ボランティア依頼は、地域からしてもらっているから。・単位数よりも会が多いので、みんなで協力している。・対象となる行事がない。・自治会、社会福祉協議会に勤務しているから・子ども会が少なくなつて、何かイベントをするのに理解が得られない。・ボランティアを必要とする活動(行事)がない。		
3	ボランティアを依頼したことがあるか	①	ある	13② ない
(1)	① 依頼内容	・清掃活動他・ボランティアにより、組織化しているが、委員の減少等により、その都度補充している。・30年間、常に指導者はボランティアである。・大掃除、行事前の用意、行事当日の立降など・学生活動お手伝い・夏祭りの運営への参加・学校教育の支援・カヤック実技指導、伝統行事の継承活動・数字の勉強会、図書掲示物作成・石田を知る会の講師・夏祭りにおける屋台の運営や夏祭りの準備(テント張り等)・平和の鐘を鳴らそうキャンペーン・ユネスコ世界寺子屋運動街頭募金・国際キャンプ、ユネスコ小中学校(サマチャレンジャースクール)		
(2)	どこに	・会費に・PTAに・人材バンク・PTA会員(保護者)・PTA役員に・本人に・市の文化振興課・中学校・市内小中学校・市内高等学校		
	どの様な方法で	・メールや電話で・会長以下、役員の人脈により依頼・PTAに・役員が直接連絡して・プリントとマチコミ・内部会議の時に・直接電話で・直接交渉・指導者バンクを通じて・電話で・直接担当者と会って		
4 (3)	何回	・15回(1校)・毎年10回程度(1団体)・1回(3校)・3回(1校)・5回(2校)・週2回~2月2回(1校)・10回(1団体)		
4 (4)	何人	・その年の必要人数(1校)・1~10人程度(1団体)・30人程度(1校)・20人程度(1校)・40~50人(1校)・3人程度(1校)・2~3人(1校)・2人程度(1校)・20人~30人(1校)・5人程度(1団体)		
	そろったか	・揃った(10団体)・揃わなかった(1校)		
(5)	困ったこと	・指導者の後継者不足・現在、頭雁宅と関係者で実施しているが、高齢化と女性の人数が減少で、困っている。・必用人数が揃うかどうか。・人数不足(交代できない)・時間の制限があること・ボランティアの質の問題(私語が多い等)		
(6)	ボランティアに期待すること	・指導者の育成・郷土史等、歴史に関わる内容について、講話や説明、もしくは案内ができる方。・真面目に一生懸命に活動してもらえなこと。・反応してくれるだけでありがたい。・子どもたちが喜ぶこと、中高年が興味をわくこと、お年寄りが楽しめることなどに分けて、みんなが楽しみたい。勉強したい。・旅費や講師料の負担・日頃の業務で、対応が困難な内容について、学校支援をしていただきたいこと・真面目に一生懸命に活動してもらえなこと。・子どもとのコミュニケーション・主体的に取り組む、この体験を今後に生かしてほしい。・独自の運営スタッフが不足していることが多いので、即戦力として対応していただける方を期待する。		
5	人材バンク、指導者バンク	25	②	知らない
(1)	活用したか	①	ある	5
	何回活用したか	・2回ぐくらい		
(2)	感想	・防衛鉄道に歴史は、知識だけでなく、体験を通しての話を聞けて良かった。・専門知識があり良かった。・育成者、指導者研修会の講師、好評であった。		
7	ボランティアを依頼されたことがあるか	①	ある	15② ない
(1)	どの様な内容か	・他市の八幡宮の例祭時に神楽を奉納しに行った。・笑い講を学校行事の中に取り入れている。・報道関係への協力。・防衛民俗芸能、防府にはさんフェア、松崎ふれあい祭りなどへの出演・華浦ふるたウオークの案内支援を行った。・花育で、花並べ等・地区行事の準備、後始末など・電話、手紙・地域活動。・夏祭りの運営・迷路の組み立て・天満宮の花回廊関係、文化祭のバザー・地区の祭りの運営・読売マラソンの塩浜太鼓応援、向島祭りの接待など・地域イベント(祭りや催事等)・ゲーム指導やキャンプ指導		
(2)	どこから	・小俣八幡宮の宮司から・学校、マスコミ、報道関係、民俗芸能連盟、地域工芸地場産振興センター、松崎ふれあいまつり実行委員会・地区から・スポーツ協会・社会福祉協議会・他PTA、会長から・天満宮・地区社会福祉協議会・地区社会福祉協議会・各種団体・電話または文書・地域の子ども会から・各団体・福祉センター		
	どの様な方法で	・口頭での依頼。・公民館を通して・直接面会、TEL他・出演依頼・直接、口頭で、文書で電話で・電話やライン・事務局を通して・封書・地区の会議を通して		
(3)	何回	・3回(1団体)・年2~3回(1団体)・複数回(1団体)・覚えていないが多数(1団体)・年1回(7校)・年1回(1校)・年2~3回(2団体)・10回(1団体)		
(4)	何人程度で依頼か	・1人程度(2校)・2人程度(2団体)・3人程度(1校)・4人程度(1校)・5人程度(2団体)・複数人(1団体)・7人程度(1校)・10人程度(1団体)・20人程度(1校)・30人程度(1校)		
	揃えられたか	・揃えられた(7団体)・揃えられなかった(1団体)・揃えられなかった(1団体)		
	ボランティアの活用に関する意見	・特殊な会で、「小女子」対象等、該当しないのでわからない。・地域に伝わる神事芸能につき、ボランティアは地域の人に限られるところがある。・公民館を中心に地域内のコミュニティを活性化させていくと良い。・今後、継承していくには、開催場所の問題、開催準備・直会・後片付け等で、人数が必要だが、人手不足である。・ボランティアの内容によるが、組織内の人脈を活用して、協力者をつくり、増やしていく。『情報ほうふ』など、市民に啓発活動を行う・何らかの報酬をあげたいのですが、予算の都合上、厳しい場合があります。そのような予算を市の方から工面してもらえればありがたい。・少人数の学校では、どうしてもボランティアも予算もまかないません。・ボランティアが多いので、何とかしてほしい。・PTAからボランティアの方に依頼できるということを初め知りしました。ボランティアの方々、積極的に学校に入って、先生とコラボしてくれと学びが広がるのではなかいかと思います。・ボランティアにしたい方、[してよかったです。]と回答がでくさい。・アンケートにおいて、「ボランティア」の定義をしてください。PTA活動の一環での奉仕作業の対応が、ボランティアになるのかどうか。想定されている活動と何なのかの定義がわからないと正しく回答ができないため。・ボランティアを通して人とのつながりを作りつつ、何のための活動なのか?また、自分たちから自発的に行えるような場の提供をできればよいと思います。・まずはボランティアを頼めるところがあるんだいうところを知ってもらったことが大切だと思います。選択肢の中にあるという前提があれば、活動も幅広くなっていくと思います。自分も知らなかったことも多いので、ぜひ知って、周りの人にも話していきたいと思います。・PTAの観点から、子どもたちが興味のあるものには、保護者も興味がありますが、授業確保の観点からとか、教職員の方改革による活動時間の確保が難しいこと、保護者の社会離れ等により、ボランティアを活用する機会がないのが現状である。・人材バンク等、ボランティア登録されている人を是非、活用していただきたいと呼びかけているが活用は進んでいない。年に一度は、各団体に活用させるようにする等、してみたらどうか?・欲しい人材、各学校が求める人材が多く登録されることを求めます。・ニーズに合った様々な分野において、様々な世代的ボランティアが必要であると思います。働き盛りの世代的ボランティアの確保は特に難しいかと思いますが、活動を広げていくためには不可欠だと感じます。また、「ボランティア=無償」という意味ではないため、有償ボランティアについても、内容によっては検討される必要があるかと思います。・周知させる。・ボランティアの活動実績があると、選定しやすい。(活動とのマッチング)・自治会連合会、社会福祉協議会が役割としてボランティア活動をしているので、今のままでよい。		
8				

防府市生涯学習推進に係る実態調査

1 趣旨：防府市では、第3次防府市生涯学習推進計画の基本目標を

- (1)「いつでもどこでも学べる環境づくり」
- (2)「ひとりひとりがきらめく人づくり」
- (3)「学びを通じてつながる地域づくり」

としている。上記の(1)(3)については、前回の社会教育委員会の調査研究で、提言していただいているが、(2)「ひとりひとりがきらめくひとづくり」について、今年度、社会教育委員の会に調査研究を依頼した。

そこで、本委員会としては、「大人の人材育成・活用部会」として、防府市の生涯学習の実態把握の一環として、現在、活動中の様々な講座等における高評価の講座内容と講師について、把握することによって今後の生涯学習の推進計画の目標達成につなげていきたいと考える。

2 調査対象：①防府市全域の公民館、②社会福祉関係管轄の「いきいきサロン」、③放課後子ども教室、④スポーツ関係講座、⑤生涯学習課所管の「指導者バンク」の派遣状況

3 調査期間：令和7年5月末～6月末 【※切：令和7年6月27日（金）】4 回収手順・方法：・5月末に上記の調査対象者宛て、アンケート依頼
・各調査対象者にアンケート用紙を記入、その後、生涯学習課へ送付

【アンケート用紙】

(NO、1)

記入者名： 団体名：

1 各調査対象者の団体で過去3年間の実施講座において以下の設問にお答えください。

- (1)それぞれの調査対象者の団体で、過去3年間に実施された講座において、受講者から高評価を受けた内容を5つずつ記入してください。また、その講座の内容が高評価を受けたのは、なぜか記入してください。さらには、その講座の講師名を挙げてください。

※ 高評価の観点とは、例えば以下の点を考慮して、考えてください。

①講師の話術が優れており、楽しい雰囲気、分かりやすい。②参加者を飽きさせないで、時間内のマネジメントができている。③時間厳守、柔軟性。④講座においての準備物等を担当者任せにしていない。⑤講座の進行が、講師本位ではなく、受講者に合わせてくれる。(対話形式：双方向) ⑥受講者のアンケートだけでなく、講座担当者の評価が優れている。等

- (2)各公民館につきましては、家庭教育学級、女性学級、高齢者教室の3つの学級・教室ごとに記入していただきますようお願いいたします。

(公民館のみ：3つの学級・教室ごとに、令和4年度～令和6年度の3年間に高評価を回答

①～⑤ 講座名： 内容： 高評価の要因： 講師名：について回答

2 防府市では、今後において、生涯学習を推進するためには、現在、各講座において活躍されている高評価の講師と内容についての情報交換があれば、ありがたいという声を聴きますが、あなたは、このことについてどのように思われますか。忌憚のないご意見をお聞かせください。

アンケートへのご協力、ありがとうございました。

アンケート集計と分析

放課後子ども教室 回収率＝6		
回答数＝10地区 対象地域＝15地区		
回答コマ数＝48		

番号	講座名	回数
1	サイエンスショー（科学教室）	4
2	バルーンアート	3
3	南京玉すだれ	3
4	神楽の鑑賞と体験	3
5	「食育」関係	2
6	「ウン知育」	2
7	ネイチャーゲーム	2
8	国際交流（韓国・アメリカ）	2
9	サッカー教室	2
10	防災を学ぶ	2
	親子木工教室	1
	パンとお菓子	1
	複数回招聘講座（52％）	25

アンケート集計と分析（公民館学級・教室）

公民館学級・教室 回収率＝10		
回答数＝15公民館 対象＝15地区		
回答コマ数＝家庭教育学級（75コマ）		

番号	講座名	回数	番号	講座名	回数
1	親子で味噌づくり	4	1	リンパ体操	6
2	パンとお菓子	4	2	健康に生きる	6
3	ママのための姿育・足育教室	4	3	園芸を楽しむ	3
4	親子科学教室（ソラール職員）	3	4	神楽を楽しむ・西ノ京神楽	3
5	和太鼓とピアノのしらべ	2	5	人権学習	3
6	ガーデニング・寄せ植え	2	6	笑いヨガ	2
7	バルーンアート	2	7	篠笛と太鼓・ピアノ	2
8	親子木工教室	2	8	終活の基礎知識	2
9	子育ての話	2	9	防府市歴史建造物の話	2
10	消しゴムはんこづくり	2		落語を楽しむ・人権	1
	神楽の鑑賞と体験	1		ピアノとサクソス演奏	1
				歴史から学ぶ	1
				防災を学ぶ	1
				ママのための姿育・足育教室	1
	複数回招聘講座（36％）	28		複数回招聘講座（41％）	29

公民館学級・教室 回収率＝100％		
回答数＝15公民館 対象＝15地区		
回答コマ数＝女性学級（70コマ）		

番号	講座名	回数	番号	講座名	回数
1	親子で味噌づくり	4	1	健康に生きる	5
2	パンとお菓子	4	2	リンパ体操	4
3	ママのための姿育・足育教室	4	3	歴史から学ぶ	4
4	親子科学教室（ソラール職員）	3	4	落語を楽しむ・人権	3
5	和太鼓とピアノのしらべ	2	5	ピアノとサクソス演奏	3
6	ガーデニング・寄せ植え	2	6	心豊かに生きる	3
7	バルーンアート	2	7	方言の話	3
8	親子木工教室	2	8	神楽を楽しむ	2
9	子育ての話	2	9	音楽&トーク	2
10	消しゴムはんこづくり	2	10	歌って元気・笑って元気	2
	神楽の鑑賞と体験	1		南京玉すだれ	1
				人権学習	1
				防災を学ぶ	1
				篠笛と太鼓・ピアノ	1
	複数回招聘講座（36％）	28		複数回招聘講座（44％）	31

公民館学級・教室 回収率＝100％		
回答数＝15公民館 対象＝15地区		
回答コマ数＝高齢者教室（70コマ）		

・上記の集計は、放課後子ども教室及び各公民館の過去3年間に実施された講座の内、高評価をあげてもらったものである。高評価を得ている講座について、それぞれの放課後子ども教室、公民館の学級・教室において、複数回招聘されている講座については、特に健康講座（11）、リンパ体操（10）、神楽を楽しむ・西ノ京神楽舞（9）、和太鼓とピアノのコラボ（5）、園芸を楽しむ（5）、歴史から学ぶ（5）バルーンアート（5）等がある。これらの講座が複数回招聘されるのは、情報交換もあるが、講師の技術及びスキルの高さ故である。専門性に優れているうえに、受講者にわかりやすいトーク及び時間管理が優れているといえる。また、健康に関する講座は、現代的ニーズに即したものであり、講話や実技は招聘要請回数が多い。

・ただし、今回、アンケート調査した目的の一つが、防府市においては、優れた講師や指導者が活用されているのか、育成されているのか等を把握するためのものである。このアンケート調査の結果、講座実施回数（コマ数263回）に対して、112回は主だった講師（重複講師）が複数招聘されているが（43％）、151回は、異なる講師が高評価を得ているといえる（57％）。

・これは、防府市に数多くある講座等の中の一部の調査に過ぎないが、防府市における講座の講師は、同じ人ばかりが数多くの講座に招聘されているとは言い難い。むしろ、各地区の放課後子ども教室や公民館指導員たちが、情報を駆使して、受講者に飽きさせない、且つ充実した講座になるように様々なジャンルの講師を見つけ出していると言える。

・特に、自由記述にあったように、その地区の人材をしっかりと発掘して、地域の活性化を図るとともに、受講者に地域の素晴らしい人材を誇りに思ってもらい、講師も受講者も地域の子どもたちや地域住民に故郷の伝統や知られていない地域の宝物等を掘り出していく手立てを考えている様子が垣間見れた。

生涯学習ボランティア団体一覧表（防府市補助金支給団体）（８２）

資料 1－4

区分		N0	団体名	区分	N0	団体名	区分	N0	団体名				
郷土研究史刊行		1	防府史談会	無形民俗文化財 保存伝承活動事業	1	占手神事保存会	防府ユネスコ協会 小中PTA関係	1	富海小中学校育友会				
		2	牟礼郷土誌同好会		2	大道人形浄瑠璃保存会		2	牟礼小学校PTA				
		3	小野郷土史研究会		3	中関塩浜唄の会		3	牟礼南小学校育友会				
		4	西浦文化研究会		4	笑い講		4	勝間小学校PTA				
		5	富海史談会		5	下津令大神楽保存会		5	松崎小学校PTA				
		6	華浦の歴史を学ぶ会		6	国府の節保存会		6	華浦小学校PTA				
			合計		7	宇佐八幡宮の腰輪踊り保存会		7	新田小学校PTA				
市子連関係					8	野島矢立神社		8	向島小学校育友会				
		区分			N0	団体名				9	中関小学校PTA		
		1	富海校区子ども会育成連絡協議会		10	浜子うた保存会		10	西浦小学校PTA				
		2	牟礼校区子ども会育成連絡協議会		11	晒石奴長持唄保存会		11	華城小学校PTA				
		3	牟礼南校区子ども会育成連絡協議会		12	花神子社参行列		12	佐波小学校PTA				
		4	勝間校区子ども会育成連絡協議会		13	防府たる太鼓保存会		13	小野小学校PTA				
		5	松崎校区子ども会育成連絡協議会		14	防府天神囃子保存会		14	右田小学校PTA				
		6	華浦校区子ども会育成連絡協議会		15	右田お田植え実行委員会		15	玉祖小学校PTA				
		7	新田校区子ども会育成連絡協議会		16	大平ふる里保存会		16	大道小学校PTA				
		8	中関校区子ども会育成連絡協議会		17	西浦音頭保存会		17	野島小中学校PTA				
		9	西浦校区子ども会育成連絡協議会		18	切畑代神楽保存会		18	牟礼中学校PTA				
		10	華城校区子ども会育成連絡協議会		19	小俣代神楽保存会		19	国府中学校PTA				
		11	佐波校区子ども会育成連絡協議会		20	半田神楽保存会		20	桑山中学校PTA				
		12	小野校区子ども会育成連絡協議会		21	金切神社神楽愛好会		21	華陽中学校PTA				
		13	右田校区子ども会育成連絡協議会		22	華浦音頭振興会		22	華西中学校PTA				
		14	玉祖校区子ども会育成連絡協議会		23	勝間浦人太鼓		23	佐波中学校PTA				
15	大道校区子ども会育成連絡協議会	24	創作風鎮神楽会		24	小野中学校PTA							
16	防府市子ども会育成連絡協議会	25	春日神社庭神事奉仕会 春日鬼太鼓		25	右田中学校PTA							
	合計	26	塚原長持唄		26	大道中学校PTA							
		27	上河原長持保存会		27	市P連事務局							
		28	お手廻り保存会		28	防府ユネスコ協会							
		29	野島の盆踊り保存会		29	市社会福祉協議会							
		30	神楽舞紅わらべ保存会			合計		29					
		31	龍美女太鼓										
			合計				31						

区分	N0	団体名	会員数	主な活動内容	設立時期
防府福祉ボランティア登録団体	1	防府手話サークル梅の会	32	手話の勉強、手話通訳、聴覚障害者との交流活動	昭和47年4月
	2	防府点訳青い鳥の会	16	点訳奉仕、視覚障害者との交流活動	昭和46年6月
	3	防長民謡会	9	民謡を通して地域者施設への訪問活動の開催、募金活動	昭和52年4月
	4	防府手話同好会	20	手話を通じた聴覚障害者との交流活動	昭和58年1月
	5	翠の会	24	田中菊代：音訳、視覚障害者との交流活動	昭和59年11月
	6	山口短期大学 ボランティアサークルやまびこの会	22	施設奉仕活動	昭和57年4月
	7	誠英高等学校 インターアクトクラブ	32	地域や施設への奉仕活動、募金活動に協力	昭和42年3月
	8	防府商工高校 インターアクトクラブ	30	J R C 部としての活動、地域での奉仕活動	昭和38年9月
	9	高川学園高等学校 インターアクトクラブ	64	地域や施設への奉仕活動、募金活動、国際交流等	昭和48年1月
	10	防府西高等学校 ボランティア部	22	地域や施設への奉仕活動、募金活動	昭和55年4月
	11	防府高等学校 J R C 部	12	J R C 部としての活動、施設、保育園訪問等	昭和42年4月
	12	ボランティアグループ華	20	地域奉仕活動、ロータスクーポン収集、募金活動	昭和60年9月
	13	防府市更生保護女性会	207	青少年非行防止活動、更生保護団体の支援、子育て支援活動	昭和42年5月
	14	華城福祉ボランティアの会	29	施設での奉仕活動	平成元年 8 月
	15	山口県厳島会防府支部	18	市内行事等への奉仕活動、共同募金協力	平成 3 年 6 月
	16	防府市要約筆記サークルたまご	20	難聴者、中途失聴者への要約筆記で情報提供	平成 7 年 1 月
	17	山水会	15	地域の隠れた活動の発掘、障害者への支援活動、 アイ・バンクへの協力	平成 7 年 3 月
	18	ドリーム若草	8	環境美化、収集、施設奉仕活動、共同募金協力	平成 8 年 8 月
	19	山口傾聴塾	15	県内高齢者施設やホスピス病棟訪問傾聴	平成17年 3 月
	20	中関地域みまわり隊	84	子どもの登下校時見まわり活動	平成17年5月
	21	さざなみ 2 1	8	朗読劇を中心に生涯教育や不登校児童とのふれあい	平成18年6月
	22	ボランティアグループ「シエロ」	7	障害者・障害児が気軽に集える場所づくりを行い、 引きこもり防止、社会進出を支援	平成23年4月
	23	布絵本「結う」	13	布絵本製作・図書館での本の貸出・幼稚園等布絵本作り講習	平成27年3月
	24	古典芸能南京玉すだれ山口保存会	13	南京玉すだれの継承と地域貢献活動を目的に講習会開催、 施設訪問	平成20年1月
	25	ほのぼの会	5	リサイクル用品を利用し物づくりを行い、売り上げを社会 貢献に	令和6年4月
		小 計	745		

生涯学習ボランティア団体一覧表（市民活動支援センター登録団体）（６９）

区分	N0	団体名	会員数	主な活動内容	活動頻度
市 民 保 険 ・ 医 療 セ ン タ ー	1	山口県社会福祉士会（防府ブロック）	50	瀧口コヅエ：成年後見制度、研修・セミナー	2・3ヶ月に1回
	2	防府賢友会	160	北村公一：透析患者中心、移植普及啓発	随時
	3	不登校カフェ	2	藤田茜：不登校児の居場所づくり	月2回
	4	山口県教職員退職互助部防府地区会	1020	上田保明：ボランティア・まちづくり	年10回
	5	ふれあいいきいきサロンのかけ橋大林寺	10	天野保男：高齢者福祉、健康、交流（自治会協力）	年4回
	6	，Style（ドットスタイル）	10	小西凡子：「つながりサポート」親の孤立を防ぐ	月2～3回
	7	ママのコミュニティ「わっこ」	2	糯畑愛：不登校児をかかえるお母さんの居場所づくり	月1回～
	8	山口県ボッチャ協会	58	徳原啓次：障害者スポーツ	月1回
	9	よりそう会	2	弦田八重子：母子へよりそい家庭の悩みや課題解決	随時
	10	音訳ボランティアサークル「翠の会」	24	田中菊代：音声訳（視覚障害者）	月1回
	11	特定非営利活動法人山口県断酒会 防府やわらぎ	70	福田充洋：アルコール依存症及びその家族のための自助グループ	週1～2回
	12	防府手話サークル「梅の会」	32	山本恭子：手話サークル	週1回
	13	くわびか子育て広場実行委員会	7	山本賢一朗：生徒と子育て中の親子の交流・ふれあい	月1回
	14	まちふく食堂	8	田中博士：地域共生活動（新田地区）	月1回
	15	防府ラテンLovers	10	田中明美：抱負を盛り上げる（ラテン音楽・ダンス）	月2回
	16	特定非営利活動法人さわやか防府	45	池本安邦：居宅介護支援	週5日
	17	防府市認知症を支える家族の会 「あじさいの会」	20	古川晃子：認知症を支える会	月1回
	18	がん患者と家族の会「にじいろ」	5	江中忠孝：がん患者と家族の会	週1回
	19	nico.nico.mammy	6	藤本真未：孤独なママ支援	月2回
	20	ポポメリー	36	藤本育栄：がん患者の居場所づくり	月3回
	21	ときめきクラブ （オレンジマーマレード）	20	松田秀子：歌を通じて仲間づくり	月1回
	22	さくらんぼの会「子ども食堂」	100	木村照子：弁当作りを通して子どもたちの居場所づくり	月1回
	23	子育て応援 ひかりの	6	杉山知子：子育て支援	年12回
	24	みんなで笑顔の会	2	吉村辰徳：子ども食堂（地域の居場所づくり）	1～2か月に1回
	25	防府リボンの会	30	宿谷三恵子：乳がん患者の会	月1回
	26	山口若年性がん患者（AYA世代） サポート One Heart	5	磯部貴恵：若年性がん患者支援	不定期
	27	生活支援コーディネーター連絡会	6	久芳将樹：地域の支援ネットワーク	平日日中
	28	マミーサポート	5	吉田美和：地域子ども食堂・居場所づくり	月1回
	29	防府市の学校給食を考える会	4	田中健次：学校給食の現状についての状況提供	月1回
	30	独立市民活動 人の心を大切に作る会	5	松永朋之：日赤応援ボランティア	年3～4回
	31	まつばっくりの会	8	梅田朋子：地域住民がかかえる困りごとへの対応	月1回
	32	山口園芸療法研究会	25	熊安悦子：演芸「療法」	月1回
	33	ラベンダーの会	10	熊安悦子：ラベンダーでまちづくり	月4回
	34	NPOジャパン ハーブ ソサエティ 山口支部	13	福村靖代：ハーブを育てながら社会貢献	月1回
	35	えこの里”ハーブのある暮らし”	15	熊安悦子：ハーブを育てることによって元気になる	月1回
	36	子ども食堂ひだまり	5	大形恵子：貧困家庭の子ども支援・学習支援	月2～3回
	37	グリーンサポートやまぐち	20	京井和子：大切な何かを失った体験への癒し	月1～2回
	38	防府市聴覚障害者福祉会	50	赤井正志：聴覚障害者支援	月1回
	39	認定特定非営利活動法人 やまぐち発達臨床支援センター	216	川間弘子：発達障害者支援	週6回
	40	防府市要約筆記サークルたまご	20	門田美和子：難聴者、中途失聴者への要約筆記で情報提供	週1回
	41	認定特定非営利活動法人 みらいプラネット	330	山根美伸：「血管奇形」を対象とした救済活動	随時
	42	全国筋無力症友の会	25	熊谷修志：「筋無力症」を対象とした救済活動	年7～8回
	43	SIDS家族の会	5	吉井郁子：流産・死産・SIDSその他 病気等で子どもを亡くした 家族支援	年1回
		小 計	2502		

生涯学習ボランティア団体一覧表（市民活動支援センター登録団体）（６９）

区分	N0	団体名	会員数	主な活動内容	活動頻度
市民活動支援センター 社会教育の推進	1	防府モラロジー事務所	29	飯田実：家庭・地域の教育力・道徳力の支援	週2回
	2	特定非営利活動法人日本FP協会 山口支部PortやまぐちSG	10	佐々木かおり：ライフプラン（知識の習得と資質向上）	3ヶ月に1回
	3	特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・ プランナーズ協会山口支部	1200	後藤文恵：フィナンシャル・プランナー養成・認証（個人資産）	年8回
	4	暮らし・安心ネット	5	中村久枝：生活を安心なものにするための情報、研修	年2～3回
	5	徳慧塾	15	岡村和彦：人材育成、研修	月1回
	6	ことばの星空 Little Stars Club	8	清水弥生：外国語学習	月1回
		小 計	1267		
市民活動支援センター まちづくりの推進	1	防府市自治会連合会	42000世帯	山崎博英：自治会連絡、円滑な運営	月2回
	2	うめてらすネットワーク	54	黒田先生：うめてらす周辺地域の活性化	月1回
	3	ほうふ天神なごみ市実行委員会「和らび」	3	武石絵里香：女性の社会進出	月1回
	4	多々良自治会	580世帯	南憲次：多々良地区住民のまちづくり	月1回
	5	幸せます防府市子ども食堂 ネットワーク協議会	30団体	岩城淳：子ども食堂を通して居場所づくり	年数回
	6	佐波川こいわたし実行委員会	15	中司達美：5月5日こどもの日にこいのぼりを揚げる、こい流し	年1回
	7	Luana	5	井手妃那：子育て仲間づくり	週2～3回
	8	防府ボランティア連絡会	820	門田美和子：ボランティア団体連絡・調整（27団体）	
	9	いにしえから笑う 防府ほほえみは人からひとへ実行委員会	7	石井稔：芸術を通して幸せな街づくり	
	10	天神藝術まつり実行委員会	5	山本美香：防府天満宮及び地域社会の発展	年1～2回
	11	幸せ写し隊	10	於土井豊昭：防府商工写真部の活動支援	不定期
	12	国分寺まつり実行委員会	8	原田拓：地域の文化施設等を盛り上げることを通じて3世代交流・伝統文化継承	7月～11月
	13	防府商工会議所青年部	52	河口信二郎：各種自主事業を通じて人的ネットワークの構築	月2回
	14	防府市中心市街地ニュース編集室	2	山野剛：防府市中心市街地の活性化	不定期
	15	（公社）防府青年会議所	42	橋口平：地域の活性化	月1回
	16	雅太鼓	15	荒瀬寛：春日鬼太鼓の継承・支援	月4回
	17	「リーベックス57自治会」	57世帯	松籠信雄：マンション住人の親睦を進める	年5～7回
	18	ルルサス会	30	前田幸男：ルルサス防府環境美化、安全安心づくり	月1回
	19	てくてと	1	久保山覚：市内の史跡・遺跡、情報の共有活動	月1回
	20	国際ソロプチミスト防府	23	青木淑子：女性と人権、国際理解	月2回
		小 計	1092		

会員数

4861

第 6 回調査…ほうふみらい塾「開講式」(市役所 8 階防府市文化センター)

江山稔ほうふみらい塾実行委員長(教育長)

「今日からみらい塾が始まりますが、こんなにたくさん来てくれて、本当にありがとうございます。仲間を作ってください。今日も皆が同じ学校の仲間と話をしていましたが、違う学校の仲間と、あるいは先輩としっかり話をしてほしいと思います。

そして、「ほうふみらい塾と言いますが、『防府で学ぶ、防府を学ぶ、防府から学ぶ』、ということで皆が防府を好きになってほしいという思いがあります。皆さんに、防府はこうなってほしいというのを発見してもらって、こんな防府にしたいなという発表をぜひしてほしいと思います。

皆さんは今 11 歳、12 歳ですが、今防府市が 89 歳。あと 11 年経つと 100 歳になります。その時に、丁度皆さんは 20 歳代の若者です。

今まで、みらい塾を卒業した人は 361 人の人がみらい塾で学んできています。今ほうふみらい塾が始まって 12 年目になります。最初にこの塾を卒業した人たちの中に、市役所に入っている人が何人かいます。皆さんには防府を一番よく知った子どもでいてほしい。そして大人になってほしい。

外に出た時に、『どこから来たの。』と聞かれると思います。『山口県防府市から来ました。』と言ったら、『防府市には何があるのか。』とたぶん聞かれると思います。その時に皆さんはこれから 1 年間で、あるいはこれまでほうふみらい塾を必ず何らかのことが言えるようになっていると思います。

まずはしっかりと頑張って学び、一年間楽しく学びましょう。」



励ましの言葉(元塾生 T さん)

皆さんこんにちは。子育て推進課の T と申します。今日はよろしくお願いします。自己紹介したいのですが、私は去年の 4 月から市役所に勤務をしています。

(まず、新しい防府市役所の魅力について紹介。続いて、身近な市役所の人たちを紹介。他にも、子育て支援課での仕事を分かりやすく説明された。)

最後に、私が仕事をする上で大切にしていることをお話ししようかなと思います。それは、相手を理解する、理解しようとする気持ち、です。

人にはそれぞれ考え方があります。見る方向でいろいろな見え方をし、答えも違います。

全員の答えが違った時でも、その一つが真実とは限らないということです。ですから、人の意見が分からない時は聞いてみてもいいと思うし、知ろうとする姿勢が大事だと思います。ある人にとっては、1に見えたとしても、他の人には2とか、3とかに見えることがあるので、そのことを踏まえて、これからもより周りを観察していろいろなことを気付いて、この話が皆さんの人生を豊かにしてくれたらとてもうれしいです。1年間、みらい塾を楽しんでください。」

励ましの言葉（元塾生 K さん）

皆さん、こんにちは。防府市生活支援課 K と申します。今日はよろしくお願いします。

ぼくも、ほうふみらい塾で、前の取り壊されている古い建物の会議室で集まって学んだのを思い出しました。

（市役所に入って6年で3か所の職場、課税課の市民税係、農林漁港整備課遺跡調査室（現在用地管理課）、生活支援課での経験について分かりやすく説明された。）

仕事をする上で大切だなと思うのは、学びというのは読み書きをすることだけではなくて、困っている人に手を差し伸べられる、困っている人がいると助けよう、と思える心を養っていけることを学ぶということが、皆さんに一番期待したいことだと思っています。

生活支援課にいても、勉強ができるより、やっぱり市民に寄り添って助けようという心がなければ、意味がないので、皆さんには、優しい心をもった大人になってほしいと願っています。皆さんが防府をもっと良くしたいとか、困っている人を助けたいと思ってくれたら、とてもうれしいです。

第 7 回調査…菅公みらい塾「聞き取り調査①」（社会福祉法人華陽会新田保育園）

菅公みらい塾の制度設計は、岡本昭彦元防府市教育委員会学校教育課長（現新田保育園長、山口大学大学院特任教授）が行った。

最初の頃は、平成 26（2014）年ですね。40 人という定員でした。市が持っているマイクロバス 2 台で全員運べるようにというわけだったのです。小 5 から中 2 までの 4 学年をマイクロバス 2 台で運べるという規模でやろうというのが人数設定でした。

いろいろな企画を用意していて、それぞれのよさがあるのですが、そこで子ども達が見つけたもので、これが将来こうすると良いという見方になってくれるといいですよ。実はこの子達が将来市役所に勤めるとか、市議員になったり、市長になったり、教育長になったりするとかを目論んでいたものですから、今やっと、みらい塾を修了した者の中に、市役所職員になった者が何人かいます。その人たちが、今、みらい塾をけっこう支えているので、そうやってつながりを作っていくって、防府をずっと引っ張っていくとか、この塾の卒業生の中から防府の骨格を作るメンバーになってほしいという願いがあります。

この菅公みらい塾はエリートの育成を目指しています。エリートと言っても算数、国語のテストの点が満点に近いということではありません。この防府市を愛することによってエリートになってほしいと願っています。

防府を学ぶ、防府から学ぶ、防府で学ぶ。防府から学ぶのからを「に」に変換した時もあります。防府を素材にして学んでいこうとしています。防府で学ぶは、場所は防府だよ、と。防府を学ぶことによって、それから学べることはたくさんあるわけですよ。それを活かさないわけはないという感じで始まっていますから。

地元に誇りをもっているということが子ども達につながりますからね。大人が『防府はつまらない所いや』、『何もない所いや』、『お前、都会へ出ろや』ばかり言っている大人がいると、子ども達は胸を張れないですよ。そういうことを全員集めて何とかしたいのですが、学校で全員を対象に何とかしたいのだけれど、地域連携教育はそういう意味合いもあるのかもしれませんが、各学校の地域連携教育をしっかりしたものにするためにも、それぞれの学校に核となる子ども達をつくろう、これがみらい塾の精神ですから。」



第8回調査…菅公みらい塾「聞き取り調査②」（社会福祉法人華陽会華陽保育園）

当時の実働を担った、川本尚貴元防府市教育委員会指導主事への聞き取りである。
現松崎小学校長である川本先生は、市子連のたこあげ大会に参加し、保護者と子どもに励ましの言葉かけをしている。

立ち上げの時ですね。防府市のことをよく知っている、子どもの中のリーダーを育てたいという思いがありました。そのリーダーには、やはり防府のことをしっかり知っていてほしい。そんな子どもを、やがては防府市を背負って立つような子どもたちをとということで、市内の小中学校に、当時は確か小学校4年生から、中3までということで、塾生を募集しました。当時は今より中学生が多かったような気がします。中学生が小学生を引っ張ってくれて、思ったよりいいスタートが切れたかなという感じは持ちました。

菅公みらい塾が、当初どこまで続いていけるものか、という不安はありました。コーディネーターがいらっしゃったので、その方が各活動のつなぎであるとか、こんな研修があったとかをまとめて、やはり、多くの方に発信していくのですよね。そういうのがあって、理解が深まって、今にまで続いているのかな、と思っています。

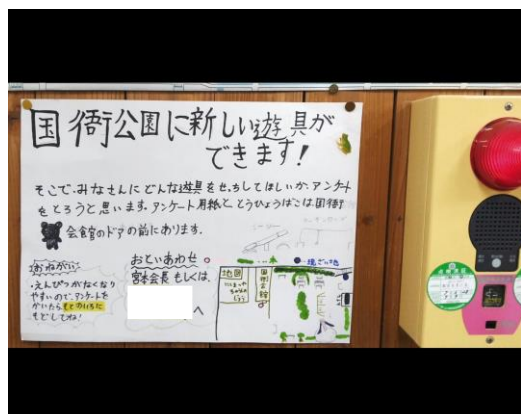
コーディネーターの土手さんの力は、大きいですね。今もコーディネーターですが、時々私も会うのですが、『川本先生続いているよ。』と伝えてくれました。先ほどのK君の話も、教えてくださって、本当にうれしかったですね。

困ったこと、力を入れたことは、やはり、子どもたちにいい経験をとということで、毎年決まったプログラム、毎年これはやるというプログラムがありながら、新たなプログラムを入れていかなくはいけないと、企業さんとかその交渉ですよ。土手さんがコーディネーターで入っていただいたので、やはり、市の教育と民間をつないでくださったというのは、大きかったですよね。

みらい塾で学んだ子どもも、最終的には、防府市はもちろん、それが自分自身の喜びにもなるし、地域の活性化にもつながるし、ということで、実際に市役所に就職してくれた子どももいるので、本当にうれしいですよ。

今、教育委員会と学校との関係も、こういう菅公みらい塾、今のほうふみらい塾、そういう取組があるので、やはり、一方的に学校が教育委員会から指導を受けるのではなくて、教育委員会も学校から学ぶものがあるのでしょうか、それはすごくありますよね。だから、本当にお互いに伴走しながら学校支援と、学校の管理職としても、指導主事の人材育成というか、関わっていききたいし、市教委の先生方、指導主事も、学校の人材育成に関わってほしいと思います。

第 9 回調査…国衛寺子屋「子ども自治会長選挙」(国衛会館)



こくが こどもかい かいちようせんき けつこうほしやうけつけ
国衛寺子供会会長選挙立候補者受付

- 告示日：7月21日(月)
- 立候補受付期間：7月21日(月)～28日(月)
- 投票日：8月6日(金)
- ：4年以上(応援者は誰でもできる)

☆投票日までに行う事

- ① 立候補の**決意表明**(2分以内)：7月28日(月)
- ② 応援弁士と一緒に**立会演説会**：7月30日(水)
- ③ **投票日前演説会**：8月6日(金)

応援弁士：応援してくれる人を決める

さくねんと しょうす
 昨年度の様子
 ※次点は副会長

こどもかいちよう やくわり
 ● 子供会長の役割

- ① 児童の希望や意見をよく聞きとりまとめて大人に伝える
- ② 地区の行事で司会・挨拶・号令をかけたりする
- ③ 子供行事にできるだけ参加する

期日前投票所

投票期間

八月五日～六日十時迄

会館二階

ほうふみらい塾についてのアンケート

神田橋 芳幸

1. 特に配慮したこと

この取組が社会教育活動であることを念頭に、子どもたちの自主性や「学びたい」という思いを大切にしたいと考えていました。それを具現化できるキーパーソンは、土手コーディネーターであると感じていたため、土手 CN へのサポートと後方支援を意識的に行っていました。土手 CN の広いネットワーク、豊富な情報量、優れたコーディネート力により、学校教育活動とは少し異なる視点から、リラックスした雰囲気での学びが実現していたように思います。加えて、みらい塾に関わってくださる講師やサポートスタッフの皆さんとのコミュニケーションを丁寧に取り、目の前で活動する子どもたちについてリアルタイムで率直な感想をいただくように努めました。もう一点、みらい塾の学びが「特別な学び」であることを子どもたちに感じさせることを意識しました。学びの素材は土手 CN のおかげで非常に充実していましたが、何も伝えなければそれが「当たり前」になってしまい、その素晴らしさに気づかない可能性があります。それを避けるため、毎回の学びの中でその価値を子どもたちに伝えるように心がけました。

2. みらい塾参加者の 1 年を通しての変化について

「学校とは違う学び」を体感した子どもたちは、新たな視点や広い視野を持つようになっていたように思います。地域の素材で学ぶ、学びの場に自ら出向く、他校の子どもたちと学ぶ、異校種の子と学ぶ——こうした学校とは異なる要素が、子どもたちに刺激を与え、新たな視点や広い視野を獲得する要因になっていたように感じます。もちろん、子どもによって変化の度合いは異なりますが、コミュニケーションの取り方が少しずつ上達していく様子も見られました。「学校とは違う学び」による効果だと思います。

3. これからのみらい塾に期待すること

現状を十分に理解していない中でのコメントとなりますが、みらい塾の卒業生同士がつながるような取組や仕組みがあると素敵だなと感じています。また、みらい塾そのものが自立し、防府の未来を考えるさまざまな団体とタッグを組みながら、NPO 的な活動へと発展し、社会教育活動のシンボルとして防府に根付いていくことを、勝手ながら願っています。

防府市社会教育委員名簿

任期 R5.11.1 ～ R7.10.31

区分	番号	構成	団体等の名称	氏名	委嘱年月日
学校教育 の関係者	1	大学・高校代表	誠英高等学校	大 田 真 一	R7.5.12
	2	小・中学校代表	小学校長会（牟礼南小学校）	長 岡 正 紀	R7.5.12
	3	幼稚園代表	幼稚園連盟（右田幼稚園）	弘 中 貴 之	R1.11.1
社会教育 の関係者	4	ユネスコ協会	防府ユネスコ協会	森 原 清	H29.11.1
	5	P T A	防府市 P T A 連合会	吉 井 秀 樹	R7.5.12
	6	子ども会	防府市子ども会育成連絡協議会	藤 井 孝 造	H29.11.1
	7	スポーツ推進 委員	防府市スポーツ推進委員連絡協議会	重 富 貴 史	R6.5.16
	8	ボランティア 連絡会	防府ボランティア連絡会	門 田 美和子	H17.11.1
	9	市民活動団体	防府市市民活動支援センター	山 野 悦 子	R1.11.1
家庭教育 の向上に 資する活 動を行う 者	10	母親クラブ	防府市母親クラブ連絡協議会	清 水 智恵子	R5.11.1
	11	子育て関係団 体	防府市母子保健推進協議会	宮 木 淳 子	R7.5.12
学識経験 のある者	12	学識経験者	***	堀 浩 二	H29.11.1
	13	学識経験者	***	竹 内 幹 雄	H27.11.1
	14	学識経験者	***	渡 邊 哲 郎	H25.11.1
	15	学識経験者	***	光 田 賢 次	R5.11.1
公募の手 続きによ り決定し た者	16	一般公募	***	田 村 浩 行	R5.11.1
	17	一般公募	***	井 上 務	R3.11.1